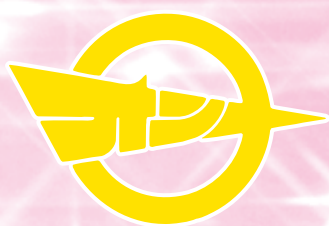


令和元年度（2019）

恩納村青年海外派遣事業

第3期 研修報告書



沖縄県恩納村

目次

はじめに

1. 令和元年度恩納村青年海外派遣事業研修生名簿	1
2. 研修生日程表	3
3. 研修報告書等	
(1) 比嘉 紀和子	
研修報告書	7
修了証書	21
(2) 松崎 加奈子	
研修報告書	23
修了証書	40
(3) 玉城 里那	
研修報告書	41
修了証書	65
4. スナップ写真	67
5. 参考資料	79

はじめに

恩納村青年海外派遣事業は、恩納村出身の青年を恩納村出身者海外移住国であります、カナダ・アメリカ合衆国・ボリビア・アルゼンチン共和国・ブラジル連邦共和国・ペルー共和国にいずれかの国に派遣し、村人会並びに現地との交流や異文化体験を通じて国際的な視野を広げ、地域において意欲的に活動する青年の育成を図るとともに移住国と恩納村との友好親善関係の増進に資することを目的に実施しております。

本事業は、平成29年度より新たに実施した事業で、アメリカやブラジルボリビアの村人会や県人会を始めとする現地の方々や研修生の職場、その他関係者の皆様のご協力により、本年度も無事に事業を終了することができました。

派遣した研修生を快く受け入れてくださったホストファミリーの方々には心から感謝申し上げます。

研修生の三人は、各地域の皆様からの歓迎、温かく迎え入れてくれたホストファミリーと有意義な日々を過ごし、沖縄への思いに触れ、移住国と恩納村の繋がりを改めて感じたことでしょう。また、沖縄や日本と違った数々の土地や文化を見学することで、「国際的な」感覚も感じ取れたと思います。

三人には、約1か月間を通じて得た貴重な体験を糧に、地域活動には励むとともに、今後もホストファミリーとの交流や受入事業にて沖縄に来る研修生との交流など、恩納村と移住国の友好親善の懸け橋として活躍されることを心から期待しております。

終わりに、本事業の実施に当たり、ご協力いただきました関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、今後とも本村の国際交流の推進に対し、ご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます、ごあいさついたします。

令和2年3月

恩納村長 長浜 善巳

令和元年度
恩納村青年海外派遣事業研修生名簿

令和元（2019）年度恩納村青年海外派遣事業

第3期研修生

（恩納村派遣第5号）

氏名：比嘉 紀和子

生年月日：1989年10月2日（29歳 女性）

出身字：山田

両親氏名：（父）比嘉 紀昌 （母）比嘉 初子

派遣期間：令和2年1月11日～令和2年2月7日

派遣先：アメリカ（ロサンゼルス）

ブラジル（サンパウロ、カンポグランデ、ロンドリーナ、サントス）



（恩納村派遣第6号）

氏名：松崎 加奈子

生年月日：1991年8月2日（27歳 女性）

出身字：安富祖

両親氏名：（父）松崎 正八 （母）松崎加代子

派遣期間：令和2年1月11日～令和2年2月7日

派遣先：アメリカ（ロサンゼルス）

ブラジル（サンパウロ、カンポグランデ、ロンドリーナ、サントス）



（恩納村派遣第7号）

氏名：玉城 里那

生年月日：1988年7月26日（30歳 女性）

出身字：前兼久

両親氏名：（父）玉城 惇博 （母）玉城 輝美

派遣期間：令和2年1月11日～令和2年2月7日

派遣先：アメリカ（ロサンゼルス）

ブラジル（サンパウロ、カンポグランデ、ロンドリーナ、サントス）



研修生日程表

恩納村青年海外派遣事業行程表

アメリカ カリフォルニア・ブラジル サンパウロ

金		土	日	月	火	水	木
1月10日		1月11日	1月12日	1月13日	1月14日	1月15日	1月16日
5:00 AM							
6:00 AM			ミシェルハウス出発			サンパウロ到着	
7:00 AM			デイズニールランドへ			棚原ファミリーと朝ごはん	
8:00 AM					賢一母と家系図についてお話し		
9:00 AM				賢一母とお話し			
10:00 AM	村長・副村長表敬	空港集合			空港へ		国広と栄子と公園散策
11:00 AM		関空へ出発 アメリカ時間 カリフォルニア到着		パンケーキを食べに		栄子、ブルーノとサンパウロ散策	
12:00 PM				賢一のおばあちゃんとお話し	サンパウロへ出発		
1:00 PM		渡久地ファミリーとマックへ					
2:00 PM							
3:00 PM		北米県人会館訪問		池原とし子さん、その家族と交流			栄子とサンパウロ散策 芸術通り 日経移民博物館
4:00 PM							
5:00 PM		リトル東京散策					
6:00 PM			平田ファミリーと夕食				
7:00 PM				ミシェルと三線教室へ		棚原ファミリーと村人会メンバーと夕食会	
8:00 PM				ミシェルと賢一とお話し			
9:00 PM		北米若者ウチナナンチュとの交流					
10:00 PM							
11:00 PM							
12:00 AM							

恩納村青年海外派遣事業行程表

ブラジル サンパウロ・カンポグランデ

金		土	日	月	火	水	木
1月17日		1月18日	1月19日	1月20日	1月21日	1月22日	1月23日
5:00 AM							
6:00 AM							
7:00 AM							
8:00 AM				空港へ			
9:00 AM				空港で待ち時間			
10:00 AM				カンポグランデへ移動	カンポグランデの公園、博物館散策	良子さん、恵子さんとお話し	
11:00 AM	棚原光子さん栄作さんとサントスへ	二セーターツアー見学	棚原栄作さんと棚原一族の店舗見学				
12:00 PM							
1:00 PM	津嘉山敏夫さん会社訪問	昼食	昼食				
2:00 PM	イタリリとトレローへ						
3:00 PM				カンポグランデ 沖縄県人会歓迎会			
4:00 PM	光子さんのおじさん夫婦の喜納さん、玉城里那の親戚訪問	ブラジル沖縄県人会本部	うりずん会長 照屋みゆきさん意見交換		良子さん、恵子さん、真凛とカンポグランデ散策	カンポグランデ散策	
5:00 PM							
6:00 PM							
7:00 PM							
8:00 PM							
9:00 PM							
10:00 PM	棚原ファミリーと夕食会	ピラカホン県人会館訪問 琉球国祭り太鼓視察	サンパウロ 恩納村人会の歓迎会	良子さん、恵子さんとお話し		沖縄県人会と交流	
11:00 PM							
12:00 AM							

恩納村青年海外派遣事業行程表

ブラジル カンポグランデ・ロンドリーナ

金		土	日	月	火	水	木	
1月24日		1月25日	1月26日	1月27日	1月28日	1月29日	1月30日	
5:00 AM								5:00 AM
6:00 AM								6:00 AM
7:00 AM								7:00 AM
8:00 AM								8:00 AM
9:00 AM	ボニート自然公園へ 水牛上牛体験 動物探索	市場散策 カポエラー見学	ブラジル料理教室 (恵子さん)	山内家で最後の朝食 荷物パッキング	プリシラー家で おしゃべり	日本人会館視察	萩堂ルイスさん宅で 豆腐作り	9:00 AM
10:00 AM								10:00 AM
11:00 AM								11:00 AM
12:00 PM								12:00 PM
1:00 PM	昼食	沖縄県人会館等視察	良子さん、恵子さん親戚、 県人会の方と食事会		昼食	萩堂ミヨコ (プリシラー祖母) 宅訪問	恩納村関係者と昼食	1:00 PM
2:00 PM								2:00 PM
3:00 PM	GRUTA DO LAGO AZUL で洞窟へ			飛行機 ロンドリーナへ	ロンドリーナ州立大学視察			3:00 PM
4:00 PM								4:00 PM
5:00 PM		フェーラーへ食材購入	県人会館で紅型ワーク ショップ、エイサー団体、 カラオケ同好会視察			ロンドリーナ散策	ロンドリーナの壮大な大 豆・コーヒー農園見学	5:00 PM
6:00 PM		夕食						6:00 PM
7:00 PM	カンポグランデへ				ロンドリーナ散策			7:00 PM
8:00 PM			カラオケ大会参加	国吉プリシラー家で夕食				8:00 PM
9:00 PM		ブラジル料理教室 (恵子さん)	志良堂三線工房見学			城間ルイス県人会長家族と 食事会	萩堂ルイスさん家族と 散策・夕食	9:00 PM
10:00 PM								10:00 PM
11:00 PM								11:00 PM
12:00 AM								12:00 AM

恩納村青年海外派遣事業行程表

ブラジル ロンドリーナ・サントス

金		土	日	月	火	水	木・金
1月31日		2月1日	2月2日	2月3日	2月4日	2月5日	2月6日～2月7日
5:00 AM					イグアスに向け サントス出発		5:00 AM
6:00 AM							6:00 AM
7:00 AM							7:00 AM
8:00 AM				サンパウロへ出発			8:00 AM
9:00 AM	フェーラー散策	プリシーラさんの バレーの試合応援へ	フェーラー（朝市）見学 ブラジルダンス 勉強会	サンパウロ到着 サントスへ			9:00 AM
10:00 AM							10:00 AM
11:00 AM						荷物パッキング	11:00 AM
12:00 PM	コーヒー勉強会						12:00 PM
1:00 PM							1:00 PM
2:00 PM					イグアス散策		2:00 PM
3:00 PM	萩堂ミヨコさん宅で昼食・ おしゃべり会	与那嶺さん宅で 昼食・三織交流	ロンドリーナ沖縄県人会会 長城間ルイスさん宅で昼食 と交流	サントス散策		きょう子さんと 日本人会館にて食事 サントス海岸線散策	3:00 PM
4:00 PM							4:00 PM
5:00 PM							5:00 PM
6:00 PM		ロンドリーナ琉球国 祭り太鼓視察	プリシーラさん おばあちゃん家へ			空港へ	6:00 PM
7:00 PM							7:00 PM
8:00 PM	県人会館にて スポーツ交流 (バレーボール)		津嘉山ファミリーと 夕食会			空港手続	8:00 PM
9:00 PM		県人会より歓迎会	プリシーラさん ファミリーとの交流			サヨナラ会	9:00 PM
10:00 PM						ブラジル出発	10:00 PM
11:00 PM	若者と交流会						11:00 PM
12:00 AM							12:00 AM

ありがとうございます！

研修報告書等
比嘉 紀和子

比嘉 紀和子

1月11(土) 研修1日目 沖縄 那覇～アメリカ ロサンゼルス

アメリカは冬と聞きましたが滞在期間が3日だったので、寒さは気合で乗り越えていこうとしていました。それを聞いて、心配した祖母が貸してくれたダウンジャケットをリュックに詰めて空港に向かいました。空港までの道のりはとても軽やかでした。空港まで見送りに来てくれた皆さま、ありがとうございます。バタバタと搭乗の手続きを終えて、まずは関西空港へ。最後の日本食はプラスに物事が進むように、かつ丼にしました。それから飛行機に乗り、ロサンゼルスへ向かいました。

ロサンゼルスに到着。祖母が言ったようにダウンジャケットが必要な肌寒さでした。空港には渡久地ミシェル清子さんと平田カート賢一さんが迎えに来て、ミシェルさんの大きなSUV車に乗ってミシェルさんの自宅に向かいました。素敵な二階建ての家でした。お昼は近くのマクドナルドへ行きました。ドリンクもコップが渡されて好きなだけ飲めるシステム、ポテトのサイズやパテのジューシーさにも驚き、沖縄から来たばかりの私たちは喜びました。その後は、OAA(Okinawa Association of America)北米沖縄県人会の会館を見学に行きました。一面ガラス張りとてもCOOLでした。中は会議室やオフィス、沖縄関連の本、いくつかの部屋がありました。箏で有名な照屋勝子さんにも会えました。自身の生い立ちの話をしてくれました。また、勝子さんは2008年に師範40年記念公演を開催しており、その写真も見せてくれました。正月のテレビ番組でしか箏を見たことがなかったので貴重な話と時間になりました。

それから近くのロサンゼルスダウンタウンにあるアメリカ最大の日本人街であるリトルトーキョーも行きました。ラーメンやお好み焼き、アニメグッズのお店などが並んでいました。1903年に創業でリトルトーキョーの中で一番古い「風月堂」では今でも元気に色とりどりの和菓子やもちが売っていました。やはり、日本の食文化やアニメは世界共通だと再認識できて嬉しくなりました。

そして2人の友人と合流し、夕飯、親睦会をして1日が終わりました。

1月12(日) 研修2日目 アメリカ ロサンゼルス

2日目は、朝からディズニーランドへ向かいました。ミシェルさんが年間パスポートを購入する程ディズニーランドが好きなようで、私達3人と意気投合しました。ディズニー観光を日程に組み込まれている事を教えてもらった時は、ワクワクが止まりませんでした。

そして、ディズニーランドへ到着。ミシェルさんはスタッフに知り合いがいて、待ち時間の長いアトラクションを何度か優先させてくれました。特に印象的だったのはスター・ウォーズのエリアです。まだ映画を見た事はないですが、たまたまチューバックとR2-D2が歩いてきたのは感激しました。エキストラの方は笑いもせず、本物の兵隊になりきっていた

ので、私達は笑いをこらえるのに必死でした。お昼はサラダとピザとパスタを食べました。おやつはきゅうり味のポップコーンも食べました。夕日に照らされた観覧車は美しかったです。

夜は近くの Cheesecake Factly というレストランで賢一さんの親戚ヨリコさんと妹のチェミさんとディナーを食べました。チーズケーキの種類が多くて驚きました。そして、その後ディズニー内にスター・ウォーズの Bar があり、飲み物と雰囲気を楽しみました。

1月13(月) 研修3日目 アメリカ ロサンゼルス

日本との時差に混乱し、目覚める時間を間違えてしまいました。どうにか準備を間に合わせ、朝は近くのパンケーキ屋さんに行きました。とても天気が良くパンケーキも話もよく進みました。家に帰ると、賢一さんのお母さんと祖母が移民してきた時の話を聞かせてくれました。「子供の頃から年中 畑の手伝いをさせられて、とても大変な思いをしてきた」との賢一さんの祖母の言った言葉は印象的でした。沖縄では仕事がないからとハワイに行ったそうですが、言葉も違うしこれまで相当な苦勞をしてきたんだな と感じました。その後の、里那さんの奏でる三線を懐かしそうに聞き入っているのは 嬉しくなりました。賢一さんのお母さんは沖縄に留学した事もあったそうで、当時の生活も話してくれました。

その後は、日本の商品が売っている大きなスーパー、エンジェルスタジアムの見学に行きました。スーパーには、オリオンビールが1本 約4ドルで販売されていました。その他にインスタントの沖縄そばもありました。エンジェルスタジアムでは壁に大谷選手の大きな看板もあり、日本人の活躍に嬉しくなりました。

そして、加奈子さんの祖母の知り合いの家に訪問してきました。山をいくつか越えて、池原さんの家に到着しました。綺麗な花が庭に咲いていました。池原さんは快く家の中に入れてくれました。出身地の話の時に、私が山田の出身でいろいろ話していくと池原さんが私の祖父と祖母を知っていて驚きました。なんと、池原さんと祖母が遠い親戚だという事もわかりました。池原さんは家の固定電話から私の家に電話してくれて、祖母との電話も実現しました。久しぶりの電話越しの祖母の声に安心しつつ、池原さんに電話をつなぐと池原さんも嬉しそうで、私も嬉しくなりました。加奈子さんの会いたかった人に会えるように予定を考えてくれた賢一さんや、加奈子さんの祖母が池原さんに会うきっかけを作ってくれなければ、私と池原さんはアメリカで会う事はなかったもので、少しのきっかけからの偶然はとてもすごいと実感しました。そして、ウチナーンチュ大会の時の恩納村役場で撮影した写真にも池原さんとその隣にミシェルさんもいて、その時 同じ空間にいたという事にも驚いていました。時間を超えて知り合えて良かったです。

夜は近くのレストランで池原さん家族とディナーを食べました。その後はミシェルさんの通っている新田先生の三線教室にも行き一緒に演奏したりして盛り上がりました。

1月14(火) 研修4日目 アメリカ ロサンゼルス

朝は賢一さんと賢一さんのお母さんと、平田家の家系について詳しく教えてくれました。疎遠になっている親戚もいるそうで、どうにか連絡先を探したいという話をしていました。とても時間と労力がかかりそうですが、諦めずに頑張ってくださいです。賢一さんのお母さんは祖母の世話もしていますが、1人ではとても仕事をできる環境ではないようで介護の人手不足や医療費などの問題にも直面している現実もわかりました。

その後、空港に向かいました。空港は広くて駐車場を見つけるのも大変でした。それから手荷物を預けて私たちは賢一さんに見送ってもらいながら、飛行機に乗りブラジルへ出発しました。

1月15(水) 研修5日目 ブラジル サンパウロ

約10000キロの移動をして、朝早く私達はサンパウロの空港に到着しました。ロビーには3人の名前と「ブラジルへめんそ〜れ」と書かれた大きな横断幕、Sanna ちゃんのイラストや恩納村のイラストを持って待っていた約10名もの恩納村人会の皆さんが待っていてくれました。恩納村出身の棚原カレン栄子さんやその家族、津嘉山さんや皆さんに挨拶して、それから車で移動しホテルに荷物を預けて、近くのカフェでエスプレッソコーヒーとオスメのパンを食べました。アメリカは冬でしたが、ブラジルは夏なので気温差に驚きました。外を歩く人々は賑わっておりタンクトップやキャミソールなど薄着でした。私は聞きなれないポルトガル語に耳を傾けておりました。

地下鉄に乗って、サンパウロの教会、市場を見てショッピングモールのマクドナルドも行きました。タッチパネルでピッカーニャ味のハンバーガーセットを注文しました。やはりカロリーなんて気にしない感じが魅力的でした。その後は、サンパウロの町を見渡せる展望台と、JAPAN HOUSE も見学しました。

20時から、栄子さんファミリーとひとしさん、若者ウチナンチュ関係の比嘉テツオさん、新里アキラさんとブラジル料理レストランでティナーを食べました。初めてのフェジョアードや牛の煮込み料理などを食べました。

1月16(木) 研修6日目 ブラジル サンパウロ

朝から サンパウロの中でも大きな公園へ行きました。自転車を借りてサイクリングしました。私は、久しぶりの自転車で皆についてゆく自信がなかったので三輪車にしました。途中、強い雨が降ってきたので大きな木の下で雨宿りもしました。たくさんの犬を1人で連れてきている方やセグウェイやスケボーに乗っている大人を見ました。昼食は、日本で人気のタピオカの粉を薄くクレープのように焼いて、中に具をサンドした「タピオカ」を食べました。味はなく、少しパサパサしてましたが、具のハムやチーズとマッチして美味しかったです。一緒にフルーツのジュースも飲みました。新鮮でした。

それから、移動してピニエイロス地区とヴィラ・マダレーナ地区でカラフルな落書きアートを見学しました。そして、ブラジル日本移民資料館も案内してもらいました。7、8、9

階の展示スペースがあり、ブラジルに渡った日本移民の背景やその歴史を知る事が出来ました。ブラジルで安定や仕事を求めて移民してきたはずなのに、実際は住居作りや原始林の伐採もままならぬ想像していなかった厳しい現実だった事。その中でも知恵を出し合っって便利な道具を作ったり、戦争も乗り越えて今を活躍している移民してきた方やその家族の皆さんを想像するだけで、胸がいっぱいになりました。

その後は、近くの通りを散策しました。揚げ餃子のような四角いあるパステウの有名なお店にも行きました。アツアツで具沢山で大満足でした。

夜ご飯は、日本食レストランで親子丼を食べました。味が濃いめでした。満席に近いお客さんで周りは賑やかでした。日本食は人気です。

1月17(金) 研修7日目 ブラジル サンパウロ

本日は朝から、栄子さんの親戚のエイサクさんに運転してもらって里那さんの親戚に会いにイタリリという地域を訪問する予定です。栄子さん祖母の光子さんも同行してもらいました。途中、ドライブインでコシーニャとコーヒーを飲んで休憩も入れながら山を越えて、向かいました。コシーニャはブラジル版のコロッケです。サントスで恩納村出身の津嘉山トシオさんの働く不動産の事務所や誕生日パーティーなどで使う建物の見学もしました。それから2台に分かれて向かいました。

小さな「ITARIRI」の門をくぐり、散策しました。小さなお店が並んでいる中のレストラン KAZUKO に行きました。そこで焼きそばを食べて情報収集し、里那さんの親戚を知っているという喜納さん宅にお邪魔して、それから一緒にトレーロに向かいました。道路から砂利道になり、坂を上ったところに家がありました。里那さんの親戚の家に到着できました。去年は弟の悠さんも再会できたそうで、前回に続いて今回も会えた事は、周りの皆さんのサポートや優しさあってこそだと感じ、その思いが私にも伝わってきて感動しました。テーブルにはたくさんのお食べ物や飲み物も準備してくれて、おもてなしの心も感じました。

夜は、光子さんの孫 愛子さんの誕生日会があるので私達も参加しました。広い部屋にはカラオケスタジオと、テーブルにはごちそうがたくさんでした。ブラジルでは、いくつになっても家族や親戚で集まり、盛大にお祝いするそうです。棚原家はみんなカラオケが上手で盛り上がり、あっという間の時間でした。

1月18(土) 研修8日目 ブラジル サンパウロ

朝から、うりずん会会長の照屋みゆきさんも同行してもらい、ニーセーターツアーの見学に行きました。14歳~20代の南米沖縄県系人の若者が集まって、沖縄太鼓や琉球舞踊、空手などの文化に触れるツアーと教えてもらいました。うりずん会とは、ブラジル沖縄県帰国留学生・研修生会です。とても日本語が丁寧なみゆきさんでした。

ニーセーターツアーでは皆と混じって、ゲームをしたりエイサー練習の見学をしました。本日が最終日らしく、生活を共にしてきた皆とのお別れの時間の時は泣いてる子やハグし

てお別れを惜しんでいて、その風景は感動的でした。昼食を済ませ、ブラジル沖縄県人会の本部の見学も行きました。とても広い会館で、そこで多くのイベントもしている話も聞き、沖縄県人会の活発さを感じることができました。会館の廊下には、昔の役場の写真がありその中には恩納村役場の写真もあり、ついつい嬉しくなりました。

それからピラカホン沖縄県人会館にも訪問し、太鼓を練習している琉球国祭り太鼓を見学しました。外から、にぎやかな音楽とかけ声も聞こえてとても盛り上がっていました。実際に踊ってくれて、近くで見ることができ、皆さんの真剣なまなざしや太鼓が好きという熱意が直に伝わってきました。

それから夜は、うりずん会のメンバー約25名と交流しました。遠くはなれていても沖縄を好きな気持ちは一緒に意気投合し、踊ったり食べたり、いちゃりばちょーで一でした。

1月19(日) 研修9日目 ブラジル サンパウロ

今日は、エイサクさんに運転してもらい棚原家の金物屋の見学に行きました。高いビルからは少し離れた場所に金物屋はありました。電気やその配線などを主に取り扱ってる店舗、ネジや金具専門の店舗、タイルや蛇口などの店舗があり、それぞれの特色を活かした3店舗でした。エイイチさんから始まった金物屋が、今は大きくなった3人の兄弟へと受け継がれていて「家族みんなで頑張ってきたからこそ幸せな生活ができているんだな」と感じました。

現在はホームセンターなどの大型店舗も多数あるそうですが「大型店では売っていない細かい部品もだいたい置いている」と教えてくれました。昼食は、棚原家とシュハスコを食べました。とても多くの種類や部位の肉がくるので、何を食べようか迷いながらも楽しい時間を過ごしました。近くのスーパーも見学しました。

それから、棚原家に訪問しました。頑丈な門をくぐり、入り口のドアを開けると中には大きいソファやテレビが目の前に。子供たちが家の中で小さい自転車を乗り回していた光景は衝撃でした。でも、ここまで裕福になれたのは祖父が頑張って働き、その流れを子供達も守れたからだと思いました。そして、近くのショッピングセンターも行きました。

夜は、サンパウロの恩納村人会との歓迎会でした。約40名ほど集まってくれて驚きました。そこでも皆さんとカラオケで交流できました。

1月20(月) 研修10日目 ブラジル サンパウロ～カンポグランデ

あっという間にサンパウロを離れる日になってしまいました。朝は栄子さんとお父さんの栄さんが空港まで送ってくれました。早く到着したので、コーヒーを飲んでゆっくりできました。また会う約束をし、飛行機に乗ってカンポグランデへ向かいました。ロビーには、去年、恩納村に来ていた山内よし子さん、ケイ子さん。そして孫のマリンさん、その友達で姉妹のマナミさんとカオリさん、県人会会長の金城エドゥアルドさん、ヨシ子さんの兄弟夫婦も歓迎してくれました。それから、ヨシ子さんのマンションに荷物を降ろし、1階のスペ

ースを使ってシュハスコを準備してくれていました。カンポグランデ沖縄県人会のたくさんの方も来てくれて楽しい時間を過ごしました。

それから、片付けをしたり荷ほどきをしたり、家で過ごしていると夜になっていました。コシーニャやお肉が夕飯に出てきました。サラダもケイ子さんの手作りでとても美味しかったです。

1月21(火) 研修11日目 ブラジル カンポグランデ

カーテン越しの日差しが強くて、目が覚めました。今日は朝から近くの公園に行きました。歩いていると、すぐ自由に歩き回るカピバラに遭遇しました。思ったより大きくて、私たちが近づいても顔色ひとつかえないカピバラ。里那さんは、いろんな角度からのカピバラを撮影していました。近くの池で泳ぐカピバラはとても癒されました。歩いて、公園内にあるドン・ボスコ地域博物館にも行きました。野生動物のはく製や、先住民族の生活や歴史にまつわる品々が展示されていました。

それから、暑い中にいたので家で涼しく過ごしました。夜は、ケイコさんお手製の寿司のお料理教室が開催されました。しかし、寿司は温度や鮮度が肝心なので、私は酢飯を任されました。炊きたてのご飯を良い温度まで、団扇を使って調整して、しゃもじでご飯を切るようにして酢をまぜました。その間にケイコさんはサーモンを切ったりして、準備が整うと手際よく巻き寿司や握り寿司を作ってくれました。

鮭の皮を焼いてパリパリしたのを上に乗せて、特製ソースをかけて食べた寿司は初めて食べて感動しました。

1月22(水) 研修12日目 ブラジル カンポグランデ

朝起きて、ゆっくりご飯を食べて、近くのショッピングモールを散策しました。普通に犬を連れて買い物している人がいてびっくりしました。待ち合わせの時間になると、夜のフェーラーに行き、カンポグランデで有名なキミエさんが麺を作っているお店で沖縄そばを食べながら沖縄県人会の方々とディナーを食べました。おわんの上にはソーキが盛り付けされており、卵焼きもネギも麺もぎっしり入っていました。崎濱秀彦さんや、宮里和直さん、踊りの先生テルコさん。県人会の方は名護市の出身が多い印象を持ちました。たくさんの料理を囲みながら20名ほどの方と交流しました。うちなーぐち新聞も私達にくれました。ひらがなで書かれているうちなーぐちと、話す時のうちなーぐちは違ってくるので、私が理解するにはもっと勉強が必要と感じました。翌日は早いので、解散も早めでした。

家に帰り、翌日の準備をして早めに就寝しました。

1月23(木) 研修13日目 ブラジル カンポグランデ ボニート

まだ暗い4時過ぎに準備をして、私たちはボニートへ貸切バスで向かいました。受付を済ませて説明を聞き、お昼ご飯を食べました。それから、バスに戻り目的地へ。到着するとウェットスーツやマリブーツ、シュノーケリングのゴーグルを渡され、着替えて川に案内されました。小さいボートに乗って川上へ向かい、そこから川に降りて流されながら綺麗な川を監察しました。大きい魚や長い藻を近くで見ることができたり、側の本々にも猿がこちらを見ていたり自然を感じました。美しい景観美を守るために日焼け止めも禁止だったり、川底に足をつけてしまうと砂がまきあがってしまい川を汚してしまったりするので、川底に触れるのは注意。という所まで自然に配慮していたのは驚きました。

そしてホテルに向かい、少し休憩して外にあるレストランへ行きました。その時マリンと私だけ、突然飛び出してきた大きなカエルと遭遇することができました。アニメNARUTOに登場しそうなぼてっとした大きいカエルでした。それからディナーを済ませ、部屋に戻ってシャワーを浴びて翌日の準備をしました。ブラジルのシャワーは水の出る所が固定されていて、温度調節も蛇口ではないので難しいです。熱湯を出しすぎてしまってもガラス張りの個室から逃げ場はありませんので私は耐えました。日本のシャワーが懐かしくなりました。また、足元に水も詰まりやすいのでテキパキとお風呂に入る事が出来ます。

1月24(金) 研修14日目 ブラジル カンポグランデ ボニート

今日はボニート自然公園へ行きました。池には大きな魚、ポニーやリヤマ、黒い大きな水牛、オウムもいました。なんと、水牛にも乗る事が出来ました。

昼食を食べて、GRUTA DO LAGO AZUL の洞窟へ行きました。そこで、野生の大きめのトカゲも見ました。ですが、すごいスピードで逃げました。説明を受けて、ヘルメットをその中からかぶる白いネットを受け取り、装備して林の中をガイドさんと説明を聞きながら進んで行きました。奥はフェンスで頑丈にガードされていました。髪の毛が落ちないような配慮と、動物が人間界へ迷ってこないような政策、これもエコツーリズムだと思います。長い階段を下りて、洞窟が見えてきました。洞窟に入ってくる光が、石灰質の水に反射して、とても綺麗な青い洞窟でした。

その後はカンポグランデに戻り、14日目は終了しました。企画や予約をしてくれたヨシコさんやマリンには感謝です。

1月25(土) 研修15日目 ブラジル カンポグランデ

朝から近くのフェーラーに行きました。建物内だったので、天気左右されない工夫がされていました。色とりどりの実の入ったビン詰、マテ茶やコーヒー、お肉の量り売り、お菓子も多く並んでいました。皮製品や雑貨も販売していました。外では数名が歌や楽器

を弾いて円を作っていました。円の中で、格闘技のようなダンスのような動きをしていました。Capoeira(カポエイラ)というそうです。

その後、沖縄県人会会館を視察しました。頑丈な門でガードされており、中には守衛さんもいました。ゲートボール場やフットサルの出来そうなコートもありました。大きい会館内の舞台裏も見学しました。新年会後だったので色とりどりの琉球衣装がクローゼットから出されていたのでそれを、マリンさんやマナミさんカオリさんが元の場所に戻していました。

そして、沖縄そばを食べたフェーラーで野菜などを購入し、家に戻りました。買い忘れもあったのでマリンさんとカオリさんとスーパーへ行きました。洗剤アリエールもブラジルで発見しました。サイズはとて BIG でした。洗剤だけでなく、果物の大きさやお肉の量も BIG でした。家に戻り、夕食を食べて、その後からケイコさんのお料理教室が始まりました。豆料理のフェジョアードとコシーニャ、包み揚げのヒゾーリの下準備から始まりました。フェアードとコシーニャは何度か食べていて、家庭料理とは聞いていたのですが終わると思っていました。ケイコさんが途中まで進めてくれていました。私達は、コシーニャの外側の生地をこねたり、中の鶏肉の下ごしらえ、その外側になる生地を広げて中に鶏肉を入れて、それを卵に浸して、衣をつける作業を体験しました。

フェジョアードは水に浸して待つそうです。フェジョアードの中に入れる豚肉も塩味が濃いので水に浸してました。ヒゾーリに入れるチーズを忘れたので、キリの良いところで本日は終了。

1月26(日) 研修16日目 ブラジル カンポグランデ

準備をして、昨日の続きから始まりました。豆をといで火にかけたり、その他の料理も作っていました。これから県人会の方やヨシコさん達の親戚を呼んでの昼食だったので、とても大きい鍋でフェジョアードを作りました。川魚の料理や葉野菜の炒め物、フルーツもありました。料理は計算や手際の良さ、経験などが積み重なって素晴らしい料理になってくると感じました。後片付けも頑張りました。

それから沖縄県人会館で、紅型のワークショップがあるという事で視察しに行きました。約30名ほどの方が集まっていました。1階に挨拶しにいくと、楽しそうに民謡や演歌をカラオケしていました。「19の春」を自己紹介も兼ねて歌いました。それから地域の子達のエイサーも見学しました。空手の型が取り入れられていましたが、沖縄市の安慶田青年会のエイサーが基本となっているそうです。名桜大学の振り付けも入っていると聞きました。一緒に踊って気持ちが一つになれた気がしました。

いつの間にか隣の会館では、カラオケ大会が催されていました。料理も持ち寄りで、飲み物も用意されていました。あつまっている皆さんに挨拶しながら、交流を楽しみました。3人で再び自己紹介も兼ねて「上を向いて歩こう」を歌いました。曲を流すのはCDと機械を使ってという方法には驚きました。

それから、名桜大学の研修生だった志良堂サユリさんのブラジルで有名な三線工房の見学も行きました。サユリさんは祖父の影響を受けて、三線の修理や製造もしており仕事もしながら頑張っていました。小さい三線もありました。サンパウロのクニヒロくんの家にあった三線もサユリさんからだと言っていました。話を聞きながら、サユリさんのお母さんが手作りのアセロラジュースを出してくれました。それはとても美味しかったです。美味しすぎて2、3杯も飲みました。今ある三線を修理して使おうという物を大切にする姿勢はとても素晴らしいと思います。

1月27(月) 研修17日目 ブラジル カンポグランデ ロンドリーナ

最後のカンポグランデの朝食でした。荷物の整理をして、空港に向かいました。空港にも沖縄そば名人のキミエさんや踊りの先生テルコさん達が待っていてくれ、お別れの挨拶や写真撮影をして搭乗口へと向かいました。

カンポグランデからサンパウロ。サンパウロからロンドリーナへ乗り継ぎでした。到着したのは19時頃でした。空港で2009年の恩納村研修生の国吉プリシーラ 千恵美さんと、母が恩納村にルーツを持つ荻堂ルイス モリヒデさんが迎えてくれました。プリシーラさんの両親にも挨拶し、夕飯のピザを一緒に食べました。ブラジル人が好きなパルミットがトッピングされていました。パルミットとは、ヤシの新芽だそうです。サラダの上に盛り付けされていたのは見たことありましたが、ピザのまで登場してくるとは驚きでした。食べてみると・・・予想外に美味しかったです!!!プリシーラさんは4人家族で、旦那さんのチアゴさん、娘のレッチーシャ、息子のルーカスがいます。ロンドリーナでは、プリシーラさんの両親カオルさん、ケイコさんのお家に泊まります。

1月28(火) 研修18日目 ブラジル ロンドリーナ

お昼はケイコさんが、フェジョアードや肉とじゃがいもの煮込み料理などを用意してくれました。ご飯を食べて、ロンドリーナ州立総合大学へ見学に行きました。敷地内はとても広くて驚きでした。高い木もたくさんあり、野生のサル(マカコ)も出るそうです。今は休み期間なので見れませんでした。また、ロンドリーナは名護市と姉妹都市なので助成金を使って造られた建物がありました。中は日本っぽい庭があり、名護からの留学生が勉強する場所となっていると聞きました。

大学を見学した後は、近くの大きなショッピングモールへ行きました。駐車場には洗車をするサービスがあり、お金はいくらか払うそうですが買い物の中に洗車を済ませておくという忙しい方には嬉しいグットアイデアは素晴らしいと感じました。中はたくさんのお店があり、広すぎて気づけば約4時間も滞在していました。商品はなにもかもカラフルでカバンや洋服はとても欲しくなりました。お土産に持って帰るお菓子を考えたり、何を買おうか考えていると夕飯の時間になりました。フードコート内で夕飯をすませて、家に帰りました。

1月29(水) 研修19日目 ブラジル ロンドリーナ

今日は日本人会館の視察に行きました。中は、野球場やサッカー、テニスのできるコートが奥まで広がっていました。今でも、大会などで使用されているそうです。それからプリシーラさん祖母の荻堂スミコさんのお宅もお邪魔しました。ケイコさんは交換で、世話をしているようで泊まり込みの日もあると聞きました。スミコさんに挨拶して一緒に昼食を食べて、ロンドリーナ散策に出かけました。祠のある公園やその近くにあるビタミン?と呼ばれているアボカドの入ったスムージーを飲みに行きました。そこに、アーティストと名乗るプリシーラさんの知り合いがいました。姉が日本に住んでいるようで、日本語を少し話していました。それから、ロンドリーナの池に行き、散歩しました。そこに#EUVRONDRINAの大きな文字の置き物があり、皆で写真を撮りました。歩いてアサイーの美味しいお店にも行きました。アサイーは さっぱりした味で美味しいです。

夕食は、県人会会長の城間ルイスさんの奥様ミチさんが迎えてくれて、ショッピングモール内のお店で家族と集合でした。ルイスさん、ミチさん、息子のチアゴさん、サチコさんもサンパウロから駆け付けてくれました。とても話がはずみ、あつという間のディナータイムでした。

1月30(木) 研修20日目 ブラジル ロンドリーナ

朝8時から荻堂ルイスさんの作る豆腐を見学に行きました。いつもは早朝から作るようですが、今回は私達の為に作ってくれました。初めて豆腐を作るのを見学するのでとてもワクワクしていました。何度も細くなるまで、洗濯時の水切る機械の遠心力を利用した機械考案作り、大きい鍋を洗濯紐2本を使って吊るして乾燥させたりと、知恵を使ってあるもので作業するルイスさんは素敵でした。豆乳や豆腐が固まる前を食べさせてくれたりしました。この作業を早朝から週に何度か作業しているルイスさんはすごいです。庭にもザクロやゴーヤーも育てており、きれいに手入れされているお庭でした。

お昼は、その豆腐を使っているウチナンチュの方が経営しているお店でご飯を食べました。近くで仕事をしているルイスさんの娘のハケオさんも合流し、カオルさん、チェミさん、他にも集まってもらいました。それから店長さんにも挨拶し、美味しい食事を御馳走になり皆さんに感謝しました。

その後は、スーパー見学して、少し離れた所にある大豆やコーヒー畑に連れて行ってくれました。緑の水平線がどこまでも続いていて、とても壮大な畑でした。それから可愛いお店でコーヒーを飲み、再び中心街へ戻りました。ディナーはルイスさんの息子とその彼女さんも一緒にロンドリーナのバス停留所の中にあるレストランに行きました。チキンと米を煮込んだガリニャダをメインに、トウモロコシの揚げものやサラダも食べました。夜のロンドリーナの夜景を楽しみつつ、帰宅しました。

1月31(金) 研修21日目 ブラジル ロンドリーナ

準備をして、フェーラーに行きました。そこで、パステオで有名な「比嘉侍」のお店を発見。パステオを食べながら、本日のコーヒー勉強会のお店へ到着。同じコーヒーでも粉の細かさや淹れ方で味や風味も変わり、豆の質にもこだわって選ばないといけない事も学びました。同じコーヒー豆でも、中に不純物が混ざっていたりするかも知れないそうで日本に帰ったらちゃんと豆を見てから判断しようと思いました。使用していた素敵なヤカンは日本でつくられていると知り、嬉しくなりました。

そして、祖母のシミコさん宅でランチをし、ショッピングモールで少し見学をして、HACHIMITSU というカフェでコーヒーを飲んだりパンを食べたりしました。コーヒーの横にあったクッキーを食べていたら、硬いものが出てきました。「異物混入か!」と思ったのですが、私の奥の銀歯のふた部分が取れていました。まさかのクッキーをブラジルで食べただけで銀歯が取れてしまうなんて…悲しかったです。それから県人会館でバレーボールの交流をしました。大人の男性も多数いて、バレー経験のない私はレッチャーシャと周りで遊んでました。でも、せっかくの交流だったので少しだけ参加してチームの人とは打ち解けました。スポーツの後に、ロンドリーナで有名なホットドックを食べに行きました。夜でしたが、大勢のお客さんで盛り上がっていました。経営者は日系の方だそうです。バレーの時に佐久間ロドリゴさんと同じチームだったのですが、ロドリゴさんの弟さんとハケオが県人会の若者で集まっていると聞いて、弟のリカルドさんの家の屋上で交流してきました。夜景がとても綺麗で素敵でした。

2月1(土) 研修22日目 ブラジル ロンドリーナ

朝からカオルさんをお願いして、プリシーラさんの参加しているバレーチームの試合を応援に行きました。国吉家はスポーツ一家で、ケイコさんも旦那さんのチアゴさんもバレーをしており、カオルさんはフットサルもしているそうです。今は怪我してたり、手術後だったりで厳しいそうですが昔はすごかったそうです。プリシーラさんも。狙って早いスパイクを打っていて、応援がとても盛り上がりました。

それから、与那嶺さん家に伺いました、年が近いカリンさんはお母さんが恩納村にルーツがあるそうです。兄弟で三線が上手で少し前も沖縄へ行ったそうです。一緒にお昼ご飯を食べて皆で話しをしていました。カリンさんが奥から三線を持ってきてくれて演奏してくれました。それも感動しましたが、里那さんの電子ピアノでの共演もとても感動しました。日本の裏側ブラジルでウチナーンチュが繋がって演奏される音楽は良かったです。

それからロンドリーナ琉球国祭り太鼓の練習風景を見たり、たまたま出会えたウラサキさんが一人一人を説明してくれたり、ウラサキさんがロンドリーナに来た生い立ちについても教えてくれました。その後からは、歓迎会でした。準備してくれた料理を食べて、皆さんに挨拶し、里那さんがセッティングしてくれた名桜大学とのテレビ電話中継も参加しました。現在のネットワークの便利さに驚きながらも、名桜で勉強している金城ピアノカ

さんと、会館に来ていた家族の皆さんが会話する様子はとても胸を打たれました。無事に中継も終わり、歓迎会もあつという間に終わってしまいました。

2月2(火) 研修23日目 ブラジル ロンドリーナ

朝からフェーレー(市場)をまわって、その後にフォホーというブラジルのダンスをレッスンしてもらいました。主に男女でペアになるそうですが、最初にステップから教えてもらいました。少しずつ慣れてきましたが、終盤でもグダグダでしたがとても楽しく踊れました。沖縄でも忘れないよう動画を見て復習しようと思います。

その後は、ロンドリーナ沖縄県人会長の城間ルイスさんの家に招待してもらい、豪華な昼食を御馳走になりました。ルイスさんの家は高い塀で周りは囲まれていて、入口も身分証を確認できないと入れないすごいセキュリティでした。家もすごい豪邸でした。約15名いましたが、広いソファもあり楽しく過ごせました。その中には、昨日会ったウラサキさんもいました。そしてウラサキさんはサチコさんのお父さんだそうです。その事実も驚きました。ゆっくりコーヒーも飲み、敷地内にある池も見に行きました。ルイスさんの車は大きくてクラシックで迫力がありました。

スミコさん家にも行き、ケイコさんにお別れを告げて家に帰りました。お昼にたくさん食べたので軽めにホットドックを食べました。その時にプリシーラさんの家族写真や恩納村での研修をまとめたDVDを見せてくれました。ブラジルに戻っても仕事や子育てをしながら、今回も面倒を見てくれたプリシーラさん、それをサポートしてくれた夫のチアゴさん、カオルさん、ケイコさん ありがとうございます。

2月3(月) 研修24日目 ブラジル ロンドリーナ~サントス

なんやかんやであつという間にロンドリーナを発つ日になってしまいました。朝早くからプリシーラさんと荻堂さんが空港まで、時間もなかったのでバタバタでしたが見送りしてくれました。それから飛行機に乗り、朝10時過ぎにサンパウロの空港へ到着しました。少しして、津嘉山さんが迎えに来てくれました。サンパウロからサントスへ運転してもらい、サントスの宿泊先に荷物を置きました。高いマンションが立ち並ぶ通りに案内されました。子供やゲストを泊らせる部屋2つが私たちの宿泊先でした。荷物をおいて、近くのショッピングモールへ昼食を食べに行きました。

それからサントスのホームスタジアムにも行きました。サッカーミュージアムも見学できました。過去に獲得したトロフィーや歴代のユニフォームが展示されていました。ペレ選手の偉大さを教えてもらいました。ペレ選手について少し調べてみましたが、2016年に映画化もしてるみたいなので、絶対に観ようと思いました。

コーヒー博物館にも行きました。あいにくの閉館日でしたが、併設しているカフェでコーヒーを飲み、それから津嘉山一族とシュハスコを食べました。およそ20名が集まってくれて、とても盛り上がりました。孫のショウイチ君は大学も飛び級するほど賢い方でした。日

本語はお父さんのネルソンさんがお上手でしたが、ぜひとも次年度にでも恩納村で研修を受けたいと言ってくれて嬉しくなりました。「沖縄に来たときは迎えに行こう」と心に決めました。

2月4(火) 研修25日目 ブラジル イグアス

早朝5時から出発し、飛行機で移動し私たちはイグアスへ到着しました。そこで、私は大きな忘れ物をしてしまった事に気づきます。一眼レフ・・・はリュックに入っていたのですが、肝心のバッテリーを家に忘れてしまい、とてもショックでした。滝の近くのバードパークにも連れていってもらい、カラフルな鳥や見たことない鳥、イグアナやリクガメもいました。そして念願のイグアスの滝に到着しました。4駆の大きな車に乗り、ジャングルの奥地に向かいました。歩いて下っていくと広い川が見えてきました。ゴムボートに乗って滝の近くへ行けました。流れが早くて大きな岩がゴツゴツしてる処もあれば、流れが緩やかな場所もあっていろんな景色を楽しめました。高いが所から落ちる水はしぶきがすごかったです。

ゴムボートを降り、歩いて滝を散策もしました。周りはジャングルなのか、野生のリス?にも遭遇できました。正面からの全景はすごい迫力でした。虹も見れて地球の偉大さを感じられました。

そして昼食をとり、お土産を見て、近くの町をドライブしました。飛行機に乗る時間になり、速足で空港に行き無事にサンパウロへ戻ってきました。車でサントスへ向かい、車内は長渕の音楽が流れ、里那さんは嬉しそうでした。夜食のマクドナルドのハンバーガーを買い、私たちは宿へ到着しました。日差しが強くて、肌が赤くなっていました。保湿を頑張ります。長い距離を運転してもらい、忙しい中での津嘉山さんの心配りが身に沁みました。

2月5(水) 研修26日目 ブラジル～アメリカ

ショッピングモールを散策後、トシオさんの妻キョウコさんとランチに行きました。最後の昼食を味わい、その後は家までの道を散歩しました。有名な港町だけに、道路のすぐ隣は海でした。それから準備をして、サントスから約4時間かけてサンパウロの空港へ向かいました。

空港には、サンパウロでお世話になった棚原家の皆さんやブルーノさん、アキラさんが待っていてくれました。寄せ書きやお土産のお菓子まで頂き、嬉しい気持ちとお別れしないといけない悲しい気持ちが交差していました。沖縄かブラジルで会えるという希望を持ち、皆で村旗とブラジルの旗を持って写真も撮りました。泣く泣くお別れをして、私たちはブラジルを出発してアメリカに向かいました。

2月6(木) 研修27日目 アメリカ～日本

ロスから羽田空港への移動で1日を過ごしました。空港で搭乗口を間違えましたが、2人が早く異変に気づいてくれて何とかになりました。機内で飲んだアップルジュースが美味しくて、とても身に染みました。

2月7(金) 研修28日目 アメリカ～日本 沖縄

長時間のフライトを終えて、羽田空港に到着しました。コロナの影響か、大勢の方がマスクをつけていました。そして、あっという間に飛行機に乗る時間になり、20時過ぎに沖縄に到着しました。企画課の城野さんや幹太さんも空港で待っていてくれて28日間の長いようであっという間の研修が終わりました。この研修で多くの日系人と交流し、アメリカ・ブラジルの観光地の視察もしながら日系人の現在の生活を体験出来ました。アメリカやブラジルに住んでいても、方言や日本語、エイサーや三線を学んでいる日系の皆さんをみて沖縄に住んでいるウチナーンチュはもっと自分たちの文化に自信を持って生きてほしいと感じました。オジーやオーバーと昔の話をして過去を知ったり、地元の青年会でエイサーや三線を先輩達から学びそれを後輩に伝えたり、沖縄観光に来る外国人を「WELCOME」の心で迎えたり・・・もっと自分自身の行動を見つめなおし、今後の恩納村や沖縄の活性につながっていくように過ごしていきたいと感じました。

研修期間中、休みをくれた職場の皆さんや私を応援してくれる友人、家族、今回の研修と一緒に過ごした里那さん加奈子さん、スムーズにいくように手続きしてくれた企画課の皆さんどうもありがとうございました。心も体も以前より大きくなって帰ってきました。また、この繋がりを大切に広げていけるよう努めて参ります。 OBRIGADA!!



修了証

恩納村派遣第5号

比嘉 紀和子

令和元年度恩納村青年海外派遣事業に於いて、研修生として研鑽に励み、恩納村出身の海外移住者子弟等との絆を深めるとともに、国際交流に関する知識と経験を身につけられました。

よって研修終了したことをここに証します。

研 修 期 間 : 令和2年1月11日～令和2年2月7日

研 修 先 : ブラジル(サントス・サンパウロ・カンポグランデ・ロンドリーナ)
アメリカ(ロサンゼルス)

令和2年2月20日

恩納村長 長浜 善巳



研修報告書等
松崎 加奈子

松崎加奈子

■ 出発（1月11日）

朝、那覇空港に集合。お見送りには役場の方、職場の先輩や、地元の友人、名桜で学んでいるルーカスさんも来てくれました。あまり想像のつかない場所に行くので、興味や、不安で緊張していました。関西空港を経由し、約12時間の飛行の旅を経て、アメリカ、ロサンゼルスへ。

■ アメリカ1日目（1月11日）

恩納村名嘉真にルーツのある、ミシェルきよこトグチとカート賢一ヒラタが出迎えてくれた。2017年と2018年に研修生として恩納村に来ていた二人です。二人が恩納村に来ていたとき、あまり話せなくて残念だと思っていたので、アメリカで会えてとても嬉しかったです。さすがアメリカ。ビックサイズの車に乗り、ミ歇尔のお家へ。車中から見た距離は近く、遠くまで続いている空を見て素敵だと思いました。家に着くとお父さんとお母さんが出迎えてくれた。ミ歇尔宅では第6回世界のウチナーンチュ大会のタオル発見。嬉しそうに2016年に恩納村に行つたと話をしてくれた。恩納村にルーツがあることをちゃんと認識しているのだと感じ、嬉しくなりました。

ミ歇尔の家族と昼食を食べた後、OAA 北米沖縄県人会館に連れて行ってもらいました。OAAの部屋には三線のミニレプリカやあながまのお面などが飾られていたり、壁には活動や記念の写真が掲示されていました。婦人部の沖縄料理の教室やウチナーグチクラスの活動があるようです。ウチナーグチクラスは10年以上続いているようで、アメリカでもウチナーグチを学んでいる人がいることを知り、ウチナーグチが異国の地でも大切にされ、残していこうという取り組みがあるのに、沖縄に住んでいる自分は全く分からないことに焦りを感じました。OAA 見学中ミ歇尔がウチナーンチュの若者を繋げるために頑張っていくという話を聞いてすごく嬉しく思いました。おじい、おばあ、お父さん、お母さんの世代、自分たちの世代、下の世代が途切れずウチナーンチュという意識が受け継がれて、うんなんちゅ、ウチナーンチュの活動がさらに活発になるのではないかと期待するとともに、できることは協力していきたいと思いました。

夜はリトルトウキョウ散策。リトルトウキョウの少し先には全米日系人博物館がありました。残念ながら中に入ることはできませんでした。博物館の通りを少し歩くと戦争で犠牲になった人の名前が刻まれている石碑があります。そこで戦時中1世2世が日本の立場なのか、アメリカの立場なのか苦悩があった話をしてくれました。

夜はロサンゼルスにいる若いウチナーンチュと会う機会がありました。夕食後はカラオケに行きました。やっぱり沖縄のアーティストの曲で大盛り上がりでした。

■アメリカ2日目（1月12日）

2日目の朝はミシェルのお父さんが用意してくれたコーヒーを飲みながら賢一宅へ移動。お父さんは朝ごはんを食べなさいとたくさんパンを持たせようとしてくれました。カメラカメラはどこでもあるものなのかと思いつつ、気遣いが嬉しいと思いました。

賢一宅に荷物を置いた後は、ミシエルの案内でカルフォルニア・ディズニーへ。園内を回りながら、ミシエルが写っている写真を見たり、ミシエルがどう過ごしているか話をしました。ミシエルはディズニーが好きと話をしている、ディズニーに来るのはリラックスする為だと言っていました。恩納村の案内する仕事をしているが、恩納村を訪れた人の声を聞く機会が少ないので、恩納村に来た人が感じたことを把握出来たら、もっと魅力を分かることができ、PR しているのではないかなと思いました。

夕食は平田ファミリーとチーズケーキファクトリーというお店で夕食。テーブルに1人担当がついて、私たちに説明してくれたり、オーダーを取ってくれたりしました。テーブルに担当がつくことを賢一の妹クリスティーナや親戚にも会え、とても楽しく過ごしました。

■アメリカ3日目（1月13日）

カリカリベーコンが美味しいアメリカンスタイルのパンケーキのお店にてランチ。少しだけ賢一のおばあちゃんと会う機会がありました。沖縄から来たの？と聞いてくれたり、おばあちゃんの元気な姿を見て、和気あいあいとしていました。

りなさんが三線を引くと嬉しそうな表情をして聞いていました。三線ですごく楽しい雰囲気になったので沖縄の音楽の文化は素敵だなと思いました。

賢一のお母さんもたくさん話しかけてくれたりと、短い時間ではありましたが、賢一の家族と過ごせて良かったです。

その後日本のも販売されているスーパーへ。ロサンゼルスで沖縄そばとオリオンビールを見つけて気分が上がりました。

聞くところによると、オリオンビールがあるのは沖縄にある基地から帰ってきた人たちが好んで飲むのだそうです。

私の祖母の教え子がアメリカにいるということで、元々は予定していなかったのですが、賢一の調整のおかげで会えることになりました。池原とし子さんは山田の人という話から、今回の派遣事業に参加したきわこさんの親戚だということが分かり、すごく驚きました。そして繋がったことにとっても感動しました。嬉しかったので、きわこさんの家族と国際電話もしていました。またとし子さん宅にあった写真を見つけて、ミシエルがこれ私ですと言いだし、写真を見てみると2016年のウンナン大会の時の写真でした。とし子さんとミシエルが再会できたことにも感動しました。とし子さん宅の庭を案内してもらいながら、話をしました。昔の話や、旦那さんがソテツを売って頑張っていた話や、庭の手入れが大変だと最近の話まで。夕食ではとし子さんのお孫さんも会うことができ、研修生受入事業に興味を持ってくれたので、恩納村で再会することが楽しみです。とし子さんのお孫さんとミシエ

ル、賢一も繋がったので、恩納村の人の繋がり交流が増えたら嬉しいです。

夜はミシェルが通う三線教室にお邪魔しました。ミシェルのお父さんも合流し、三線の演奏が始まりました。ローマ字読みにした三線の歌詞を見ながら真剣に、楽しそうに演奏していました。知っている曲は演奏に混ぜてもらいました。休憩の時は皆さんの沖縄に行った時の話で盛り上がりました。ミシェルは毎週三線教室に参加しているようで、沖縄から帰ってきても続けている、沖縄への気持ち、三線への熱意に感激しました。

■アメリカ4日目（1月15日）

朝パッキングを終え、賢一の運転する車で空港へ。空港へ行く途中寄ったお店でもそうですが、行く先々で、沖縄から来ているんだ、案内しているんだとフランクに店員さんと話している姿を見て、気軽に話をできる距離感がいいなと思いました。賢一は私たちが上の階に上がっても最後まで見送ってくれました。あっという間に終わってしまったロサンゼルス滞在了。ブラジルへ向け約12時間の飛行。

■サンパウロ1日目（1月15日）

飛行機の到着が早朝にも関わらず沢山の方々が出迎えてくれました。研修生3名の名前が書かれた横断幕と、サンナちゃんやナビーちゃんのポップまで。あんなに沢山の出迎えは初めてで、驚きました。到着早々にサンパウロのウンナンチュ、ウチナーンチュの暖かさを感じました。

棚原国広さん、2017年の恩納村の研修生が運転する車に乗ってサンパウロでの宿泊先、ニッケイパレスホテルへ。このホテルは2018年の恩納村の研修生、棚原栄子さんが働いている所でした。沖縄で学んだことを活かして、ホテルの仕事をしたいと思い始めたそう。その後はホテルから歩いて徒歩7分のおしゃれなカフェにて朝ごはんを頂きました。入店時は回転アーム式ゲートを通り、一人一人カードを受け取ります。カフェの入店に必要なのか疑問でしたが、セキュリティ、人数把握、会計に便利なのかなと思いました。いつもは飲まないエスプレッソのコーヒーを。不思議と飲めたので、美味しかったのだと思います。カフェのティッシュは沖縄でよくみる置き方と違い横向きで、場所はとるけど、安定していて取りやすく良いなと思いました。栄子には妹のあいこがいます。高校生だと聞き、学校が無いのかと、尋ねると、通訳を交えながらではありましたが、色々答えてくれました。

朝食の後は市内散策。散策前から、携帯電話を出していると取られる、危ないから気をつけてと言われ、治安の違いを感じました。写真をあまり取れなかったのが残念です。移動は地下鉄を使い教会へ。気を付けてと言われての乗車だったので、緊張しました。地下鉄の中では声を張り上げている人がいて、何ごとかと思ったら物を売っている人がいました。初めて見る光景だったので、新鮮でした。

教会のステンドグラスはとても素敵でした。教会の外には沢山の人々がいて、その日はたまたまデモがある日だったようです。教会の近くでウロウロしている人は、気候が暑いせいか、

上半身裸の人が多く、街の中でもあまり気にしないのが不思議でした。警察と思われる車両とちょっとした人だかりがあった所での話で、人が亡くなっていたようだと。教会の前の広場で、その上、人が沢山いる所での出来事、そういった場面に遭遇したことが無かったので、衝撃でした。日本で過ごす日常と違うと感じたときでした。

お昼はブラジルのマクドナルドへ。ピッカーニャ(ブラジルのお肉の名前)のバーガーを食べました。肉々しくて美味しかったです。ブラジルのマクドナルドでの注文は初めての電子画面で。ブラジル進んでいるなど。

昼食後は JAPAN HOUSE サンパウロへ。1階にはオリンピックマスコットキャラクターのミライトワとソメイティが、2階には風呂敷などが販売されており、3階は和食を食べることのできるレストランでした。市内散策は2018年に県費留学生で沖縄に来ていたブルーノさんも同行して案内してくれました。

夜は栄子の父、栄さんと弟の栄太とも合流し、人生初のフェジョアード。見た目が黒く、豆が苦手なので、少し躊躇してしまいましたが、食べてみると意外と美味しい。沖縄で過ごした時の話をしたり、家族について話をしたりしました。栄子のお父さんはウチナーグチを勉強しているそうで、何故ウチナーグチを話さないのか、知らないのか、という話で、アメリカで感じた焦りが、恥ずかしいという感情になりました。自分で聞いたり努力していかなければと思いました。

■サンパウロ 2 日目 (1月16日)

2日目は栄子さんと国広さんと朝から公園へ。サンパウロのイビラプエラ公園はとても広いので、サイクリングをすることに。道も整備されていて、アップダウンも少なく進みやすかったので、自然を感じながらサイクリングできたと思います。途中スクールに襲われながらも木の下で雨宿りしながら公園を回りました。公園内には露店が何箇所かあって、お水やお菓子、ココナッツなどが販売されています。公園では各々の過ごし方をしていて、地元の人、観光で来た人、大勢の人がいました。

お昼はタピオカのお店へ。日本でよく食べる丸くてモチモチしたタピオカとは違い、タピオカの粉をフライパンで焼いて作った薄い生地で具材を覆った食べ物でした。カレーと食べるナンをイメージしていましたが、少し粉っぽく口の中の水分が取られます。オリーブオイルと塩を少し掛けて食べると美味しかったです。ブラジルでは良くする食べ方なのだそうです。昼食後は市内散策再開。移動はタクシーではなくウーバー。壁に素敵な絵が書かれた通りへ。ここの通りは壁ごとにいろんな絵が途切れることなく描かれていて、インスタ映えスポットでした。サンパウロの街中の壁にも様々な絵が描かれており、ドライブしていても飽きないなと思いました。散策後はブラジル日本移民資料館へ。移民の理由や、移民者数、船の紹介や、移民に関連した有名な人の紹介、どう生活していたのか、昔使っていた道具、戦時中に起きたこと、移民促進に使われた、ポスターや旗、様々なものが展示されていました。館内には移民した人を調べるシステムもあり、名前や、出航した日など調べることができます。

里那さんはその機械で親族の名前を探し出していました。ブラジル日本移民資料館の見学スペースは3階にもわたる大きな施設です。想像以上に大きかったので、驚きました。おやつには本場のパステウ。薄い生地で具を包んで揚げられた食べ物。サクツとした後にフワツと生地が離れる食感でした。

■サンパウロ3日目（1月17日）

3日目は栄子の叔父にあたる栄作さんの運転で、栄子の祖母のみつこさんと一緒にサントスへ。恩納村出身の津嘉山敏夫さんの会社を訪問しました。津嘉山さんは不動産の事業をしています。津嘉山さんのオフィスには家系図が貼られていたり、写真が飾られていました。その日の目的は玉城里那さんの親族に会いに行く予定でありましたが、連絡先や住所が分からず、とりあえず分かっているイタリリという所に移動しました。里那さんの親族を知っているという方がいるお店へ。そこは日本食のお店で、Kazuko という名前です。昼食に焼きそばを頂きました。Kazuko で里那さんの親族の情報を得て、イタリリにはみつこさんの親戚もいるということで、少しだけお話をしにお宅へお邪魔しました。家に入っすぐ、ビール飲むか？の一言。酒ジョーグーがここにもいました。今回は美味しいコーヒーを頂くことに。コーヒーのお供にシフォンケーキやクッキーが運ばれてきてカメラカメラが始まりました。その後、トレーロへ移動。全く連絡もつかず会えるのか心配でしたが、里那さんの親族のお宅へたどり着くことが出来ました。里那さんが親族と会うことが出来て、自分の親族では無いけれど、感動し、とても嬉しく思いました。里那さんの親族はバナナ農園を営んでいるそうです。ご自宅ではとても唄・三線の上手な青年がいて、演奏を聴かせてもらいました。日本語は話せないけれど、本当に上手でした。

夜は栄子の妹、愛子の誕生日会へ。家族の誕生日は、親戚一同集まってお祝いするそうで、とても仲の良さを感じました。大勢で、ご飯を食べながら、カラオケ。りなさんが栄子のいとことパプリカを歌っていました。小学生の子たちもとても社交的で、私たちの所へ話をしにきてくれたりしました。栄子の祖父栄一さんとみつこさんが並んでいる姿はとても微笑ましかったです。ろうそくの火を消すときはケーキに挿さった花火に照らされながら、みんな誕生日の歌を歌いお祝いしました。

■サンパウロ4日目（1月18日）

4日目の午前中はニーセーターツアーの視察。ニーセーターツアーはブラジル、ボリビア、ペルー、アルゼンチン、アメリカから集まった13歳から24歳までの沖縄にゆかりのある、または沖縄のことが好きな青少年たちが沖縄の文化や芸能に触れながら、自分のルーツを考えたり、交流を深めたりするプログラムです。毎年国を変えながら行われるそうです。今回はブラジルでの開催だったので、運よく様子を見る事が出来ました。恩納村にルーツのあるロンドリーナ出身のハケオもこのプログラムに参加していました。

日本語が話せる子がいるグループに入れてもらい、少しだけ参加。ニーセーターツアーに

参加して、どう感じているのかを話してくれました。プログラムに参加できてよかったと、沖縄を好きな人と繋がれてよかったと、仲良くなったからプログラムが終わって離れるのが寂しいなど話してくれました。若い世代がこんなに沢山あつまって沖縄のことを知ろうとしていること嬉しく思いましたし、頼もしいなと思いました。前回参加し、今回サポートに回っている人はこの集まりをなくしたく無い。みんなともっと繋がりを深めていきたいと言っていました。全ては見ることではできなかったけれど、三線、獅子舞、エイサー、棒術などそれぞれ気になるものの体験、練習なども行なっていました。

夜はビラカホン県人会館へ。琉球国祭り太鼓の練習を見学しました。沖縄で見る機会が無かったので、初めて見たが、揃った動きや、大きな動き、物凄い迫力でした。迫力の中にも空手や手踊りの振りが入っておりしなやかさも、とてもかっこ良かったです。自分が参加していた地元のエイサーは旧盆時期だけですが、琉球国祭り太鼓は年間を通して練習を行っているそうです。人数が多いことにも驚きました。琉球国祭り太鼓の見学の後は、うりずん会の方との交流。うりずん会は沖縄での研修に参加した人や留学に行った人たちが構成されています。沖縄から帰ってきて終わりではなく、帰ってきてからも繋がっていて、定期的に集まっているようで、今後うりずん会に参加する人が増えたらいいなと思います。集まった場所は国広さんのスタジオがある建物。美味しいお肉や果物を食べながらたくさん話をしました。沖縄で出会った友達にも再会することが出来て、とても嬉しかったです。時間があつという間で、離れるのは名残惜しかったです。

■サンパウロ 5 日目 (1 月 19 日)

5 日目は棚原家のお店を見学させていただきました。赤と黄色に塗られたとても目立つ建物。まずは栄一さんの次男栄次さんのお店から。可愛いタイルや便座、塗装の道具、おしゃれなゴミ箱やマットなどが模様替えやデザイン関連のものが多かったように思います。次は栄一さんの長男で栄子の父の栄さんのお店へ、入り口からたくさんの種類の照明が店内に入ると電気スタンドや、固定電話、子機が目に入ってきました。電球やスイッチ、コンセントやコードなどもありました。お店の奥に行くと部品ごとに分けられた小さな引き出しがいくつも並んでいました。最後は栄一さんが始め、今は栄作さんが営み、管理しているお店へ。建物は大きく、扱っている商品は万を超える。小さなネジから、針金、ドライバーや色々な種類の工具、大きな脚立やパイプまで。地下に降りていくと、隠れんぼできるぐらい部屋が別れていて、いろんな商品が置かれていました。あんなに大量の種類を管理し、仕入れて、場所を覚えるなんて大変だと思います。栄作さんのお店のシステムは面白く、来店したお客さんからの要望のものを店員が探し、レジまで持っていくスタイルで、お客さんは中に入れません。大量の商品を管理しやすくするためのアイデアがすごいなと思いました。昼食はブラジル代表料理、シュハスコを。たくさんの種類のお肉が次から次へと運ばれてきて、食べたいものを、切ってもらって食べ方です。食べ放題なので、お腹がはちきれそうでした。栄一さんはブラジルにきて、仕事を 4 回かえ、今のお店を始めたそうです。日本の人は

退職後は活気がないと感じる、残念だと話しをしていました。移民して、試行錯誤しながら、今の生活を築いてきて、常に考える習慣や挑戦する気持ちがあるのかなと思いました。ここでも小学生チームは話しかけにきてくれました。話そうとしてくれる姿勢がとても嬉しかったです。食後は栄一さんのご自宅へ。日本語のテレビ番組を見て、和みました。たくさん写真を見ながら説明をしてくれました。棚原家はとても仲がよく、親族を大切にしている姿を見て、自分はどうかと振り返る機会だったかなと思います。

夜は恩納村人会の方々と夕食会。棚原家以外にも沢山いて、すべての方と話すのは難しかったですが、たくさんの方と交流できて嬉しかったです。サンパウロの方はカラオケが好きなのか、ここでもカラオケがありました。みんなと歌を通して楽しい時間を共有できたのは良かったのでは無いかと思います。

■サンパウロ 6 日目 (1 月 20 日)

サンパウロ最終日、パッキングを終え、栄さんと栄子が空港まで送ってくれました。私たちが中に入るまで見送ってくれました。飛行機に乗りカンボグランデへ。

■カンボグランデ 1 日目 (1 月 20 日)

カンボグランデに到着すると、今回お世話になる山内よし子さん、妹のけい子さん、孫の真凜、県人会の方々が出迎えてくれました。空港から出た時の空は青く、綺麗でした。よしさんは私の父の同級生で、約 2 年前、私が世界のウチナーンチュ、ウンナンチュに興味をもつきっかけになった方です。2019 年の冬に来沖したよし子さん、恵子さんに会っていましたが、ブラジルで再会することが出来て嬉しかったです。よしさんのマンションの共有スペースにて歓迎会を開いてもらいました。そこではシュハスコが準備されていました。家庭でもよくやる食べ方なのかなと思いました。手作りのシュハスコもとっても美味しかったです。歓迎会には沖縄そばの麺を作っているきみえさんという方もいらして、カンボグランデにあるフェーラーという市場は沖縄そばで有名な場所だそうで、後日行けるとのことで、色々見たいなと思いました。

夜はブラジルの料理コシーニャをいただきました。雫のような形をした食べ物で、ほぐしたササミをジャガイモで包んで揚げた食べ物です。

■カンボグランデ 2 日目 (1 月 21 日)

2 日目はお昼前からカンボグランデの公園を散策。ここの公園もとても広い。1 時間ほど歩きました。日差しが強く皮膚が少しヒリつきました。公園内では野生のカピバラやトカゲを見ることが出来ます。動物園でも無いところで集団の動物を見ることが出来るなんて、環境の維持をされていてすごいなと思いました。ブラジルは等間隔でゴミ箱が置かれていることがあるのですが、公園内のゴミ箱は動物の形をしていてユーモアがあるなど。敷地内には MUSEUDAS CULTURAS DOMBOSCO という博物館もあり、先住民が使っていた道具や作った物や

写真、またたくさん昆虫や動物の標本がありました。展示方法も独特で、覗くタイプや順路があまり決まっていなかったり、床の空間に展示されていたりと面白かったです。戻ってきからは真凜たちとカードゲームをしたり絵を見せてもらったりしました。

夜は恵子さんがお寿司を振舞ってくれました。ブラジルで食べた巻き寿司のお米はべちゃべちゃだったり、ポロポロだったりでしたが、恵子さんが作ったお寿司はとても美味しかったです。

■カンポグランデ 3 日目 (1 月 22 日)

3 日目の午前中は真凜の趣味の絵や絵を描く道具を見せてもらいました。私の姉も絵を描くことが好きなので、東京にいる姉に連絡し 3 名で少しお話し。真凜が沖縄に来たらずひ姉とも交流してもらいたいです。真凜は大学でデザインを学んでいて、自分の好きなことが明確で、興味あるものを学んでいて、素敵だなと思いました。

お昼はセビーチェという川魚と野菜のマリネのような料理とローストビーフ、寿司を家でいただきました。その後市内散策。お店のチラシは日本とは違い、シンプルに等間隔で配置され、金額別にこういうものがありますと表記されていました。

市内散策後はフェーラーへ。入り口には蕎麦の巨大なモニュメントがあり、沖縄そばで有名だと聞いていたフェーラーに来ることができ、ワクワクしました。BARRACA DA NIRIA というお店には本当に大勢の県人会の方が来てくれていました。席を確保できず、少し離れた所で座る方もいるほどでした。まずはジョーブラジーにという牛の胃袋のスープを。少し辛く味付けされていて、美味しかったです。そして待ちに待ったブラジルでの沖縄そば！出しも美味しく、麺も沖縄で食べるそばと変わらず、お肉はほろほろしていてとてもとても美味しかったです。ブラジルの沖縄そばはネギと卵とお肉がいっぱい麺の上に乗せられています。フェーラーの中には 20 軒以上のそばのお店があるようであちらこちらに点在していました。フェーラーだけでなくフェーラーの外でも沖縄そばのお店を出す人もいます。沖縄の味がブラジルでも有名な食べ物になっているなんて、すごいと思います。県人会の方々は名護の人が多く、どこの方ですかと尋ねるとほとんどが名護と答えていました。那覇の人もいましたが、少数のようです。

■カンポグランデ 4 日目 (1 月 23 日)

この日は早朝 4 時起き。Bonito という地域に行くということで、朝早くから準備に追われていました。途中で食べようと、リナさんときわこさんがサンドイッチの準備もしてくれて午前 6 時前出発。車中は飲食禁止とのことでサンドイッチはお預け、早起きということもあり、全員睡眠に徹していました。車に揺られること 4 時間。今日のアクティビティの申し込みを。現地スタッフから日焼け止めや虫除けは付けてはいけないとの説明がありました。自然を保護するために必要なことだと教えてくれました。環境に配慮するルールを守る取り組みがしっかりなされていてすごいなと思いました。アクティビティは川下り。ウェット

スーツに着替え、水に慣れる為に入水。ブラジルは夏ではありましたが、水は冷たく、少し震えます。体を慣らしている途中、よし子さんとリナさんが川に流されそうになるハプニングもありました。川上に行く途中には野生の猿を見る事も出来ました。泳ぐ際の注意事項もあります。足をバタバタさせない、地面に足をつけない等です。観光資源として、ただ利用するだけではなく、自然環境を保護する姿勢は見習うべき所があるのではと思いました。水中はとても透きとおっていて、綺麗でした。川で泳ぐ事も、ぶつかるのでは思うぐらい至近距離で魚を見ることも中々無いので、いい機会に恵まれたと思います。川下りが終わり、ホテルへ移動。力尽き夕食以外はベッドの上で過ごしました。よし子さんとけい子さんの体力には脱帽でした。よし子さんけいさんの年齢で、川下りする日本の女性はいないのではと思います。

■カンポグランデ 5 日目 (1 月 24 日)

Bonito で迎えた朝も早くから行動。朝食を食べた後は BALNERIO do SOL という自然公園へ。出発前、ホテルの出入り口付近に設置されたゴミ箱を見てみると、キャップなどの分別できるように配置されていました。ブラジルで分別のゴミ箱はあるが、分別されているようには感じなかったのが、ホテル前のゴミ箱を見て感心しました。Bonito の習慣でしょうか。自然公園へ行く道は舗装されている訳では無いので、乗車中激しい揺れを感じる事もありました。自然公園の名前の通り川があります。施設は過ごしやすいように、パラソルやイスは沢山あり、レストランやちょっとした遊具も設置されています。ここでワニのパステオを食べる予定でしたが、残念ながらおあずけ、、、人生初のワニはまたいつかの機会に。少し先へ歩き、進んでいくと可愛いアルパカやポニーがいます。生きているのかわからないぐらい黒光りし、ビクともしない水牛がいたり、色鮮やかなオウムがいたり動物とも触れ合えます。ここには平均 1 日 100 人ぐらいの人が来るそうで、南米はもちろん、アメリカやヨーロッパからも観光客が来るそうです。

昼食後は GRUTA DO LAGO AZUL へ。順番が来ると説明が始まり、ヘアキャップとヘルメットをかぶり、山道を歩きます。道中では植物の説明をしてくれます。真凜が通訳してガイドが話していることを教えてくれました。進んでいくと洞窟の入り口へ、急な階段を何段も気をつけながら下りていきます。ついた先は青い洞窟。洞窟に溜まった水が光に反射しとても青色を放っています。手前の浅瀬はエメラルドグリーンで色のコントラストが素敵でした。自然を満喫でき、神秘的に感じることのできる場所でした。

■カンポグランデ 6 日目 (1 月 25 日)

午前中は真凜、かおり、まなみと市場へ。ティッシュなどの生活用品から、肉を扱う店舗まで、一角一角で販売者が違い、様々な商品が並んでいました。ブラジルのお菓子を買いたいと思い行ったお店の人は親近感を覚える顔をしていて、購入後に話しかけてみると、なんと

ウチナーンチュでした。日本語は話せなかったが、沖縄の那覇にルーツがあることはご存知でした。偶然の出会いでしたが、記念に一枚写真をとりました。市場での仕事がこのまようまくいって欲しいです。少し離れたお店にも行くことになったのですが、日本語を話してはいけないと言われ、外国人だとわかるとボッタクリに会うそうで、少し緊張しました。別の所では、先住民が野菜などを売っているというので、少しだけ見学に。行った先では、カポエラーという踊りが始まっていました。音に合わせてながら回し蹴りや側転をしたり、相手との距離感を保ったり、格闘技の要素のある踊りでした。偶然にも現地の踊りを見ることが出来て良かったです。家に戻ってからは、市場で購入したマテ茶の飲み方の講座が始まりました。初めて専用の容器に茶葉を入れ飲むので、新鮮でした。水が無くなれば足して何回でも飲めるようです。昼食後はカンポグランデ沖縄県人会へ。建物は大きく、ゲートボールもできる敷地もあります。真凜は琉舞もやっているようで、新年会に使った衣装を片付けたり、整理したりしていました。会館には舞台もあり、舞台裏には沢山の衣装が保管されています。沢山の衣装や花笠などの道具を見て、カンポグランデでも沖縄の伝統文化が愛されているのだなと感じました。県人会館の後は食事の買い出しでフェーラーへ。カンポグランデ3日目に来た時には気づきませんでした。野菜も小物も販売されていました。夕食の準備をしている間に、次の日に使うブラジルの料理フェジョアードに必要な豆の選別を。欠けている豆や色の悪い豆を退けていきます。夜は大きな川魚を頂きました。骨が太く、長く、沢山あるので、口の中で刺さらないように食べるのが大変でしたが、おいしかったです。りなさんときわこさんは夜11頃からけい子さんからコシーニャをの作り方を伝授してもらっていました。

■カンポグランデ7日目（1月26日）

朝からお客へ出す料理、フェジョアードを作るために、バタバタしておりました。けい子さんが朝7時ごろから料理の支度を初めてしました。フェジョアードは奴隷が豆と雇い主が捨てた豚の皮や耳、牛の余った部分を一緒に煮込んで作ったもので、水曜りと土曜日に食べる習慣があったそうです。お昼にはよし子さん、けい子さんの親戚や県人会の方が来て、一緒に食べました。名護の方も来てくれており、色々お話をしました。移民のことを知るために”はるとなつ”という作品を見た方がいいと言っていました。自分たちの親の世代はやっぱり苦労もあったと思うからと。帰ったらみる時間を作ろうと思いました。その後は真凜たちと沖縄県人会館へ。今日は紅型のワークショップが開催されているということで、見学に。サンパウロからきた方が紅型についての説明をしており、参加者は話を聞いたあと、やり方を確認しながらハイビスカスの型に色をつけていました。色をつけるには結構力があるようで、利き手が痛そうな様子もありました。参加者の中には若い方もいて、幅広世代が沖縄の文化について学んでいて嬉しく思いました。余談ですが、県人会館のお手洗いの入り口にはMULHUER、”INAGU”、ONNAと表記されたプレートがあります。ここでウチナーグチを見つけたことにこっそり喜んでいました。ワークショップが終盤に入った頃に隣の体育館

スペースでは大太鼓と締め太鼓を持った青年、少年が集まってきました。カンポグランデでは伝統エイサーをしているそうです。安慶田エイサーと名桜大学の留学生時代に踊ったエイサーをやっているそうです。手踊りには女性らしいしなやかな踊りと、空手の形を取り入れた踊りがありました。少しだけ、練習に参加させてもらいました。道具を置いている倉庫のも見せてもらいました。この日は夏休みということもあって参加人数は少なかったのですが、大太鼓が 30 近くはあって沢山のエイサーを踊る仲間がいるのだろうと思いました。エイサーを見学しているうちに隣ではカラオケ大会がスタート。皆さん好きな曲や得意な曲を披露してとても楽しそうでした。私たちは3名で上を向いて歩こうを歌いました。カラオケ大会を抜け、紅型ワークショップで色々話しをしてくれたサユリさん宅へ。サユリさんは県費で沖縄に来て、三線の工房で製造や修理の過程を学んだそうで、ブラジルに戻ってきて、三線の修理などを請け負うことがあるそうです。サユリさんのおじいさんが三線を作っていたそうで、今は亡きおじいちゃんと三線への強い思いを語ってくれました。

■カンポグランデ 8 日目 (1 月 27 日)

パッキングを終え、空港へ。空港にも沢山の方がお見送りに来てくださいました。記念撮影をしてゲート内へ。私達がお世話になったよしこさん、けいこさんの所ではとても美味しいご飯を頂いたり、ブラジルの料理を教えてもらったり、大きい洗濯機を使わせてもらったり、家族の 1 日の流れを過ごすように、とても心地がよかったです。お昼過ぎには次の目的地ロンドリーナへ出発。

■ロンドリーナ 1 日目 (1 月 27 日)

カンポグランデからサンパウロを経由し、夕方にロンドリーナへ到着
出迎えには、国吉プリシーラちえみさんと荻堂さんが来てくれました。プリシーラさんは 2009 年に恩納村の研修生として沖縄にきています。空港からプリシーラさん宅へ移動。車を出るときに、中に荷物は無いか確認されました。車上荒らしに気を付けなければならないとの事でした。私たちが家へ到着して少しして、プリシーラさんの娘レチーシアが「私はウチナンチュ」だと言った時は驚きました。5 歳で自分のルーツを意識しているのはすごいなと思いました。夕食はピザ！ブラジルの漬物パルミットにはまだ慣れていませんでしたが、ピザは思ったより美味しかったです。ピザにはブラジルのジュースグアラナがマッチします。夕食を終えロンドリーナでの滞在先はプリシーラさんの両親、かおるさんと恵子さんのお家へ

■ロンドリーナ 2 日目 (1 月 28 日)

プリシーラさん宅で朝食後、2009 年の恩納村からの移民した人の名簿を見せてくれました。資料は大切に保管されているようでした。資料には多くの名前が載っていて、恩納村出身者に会えるのが楽しみになりました。昼食はけいこさんもきて、豆料理フェーションと一緒に

ソーキを出してくれました。午後はプリシーラさんが通ったというロンドリーナ州立大学へ。大学の敷が広く、歩いての移動は困難だったため車で少し回りました。車から降りて少し歩いたところには日本国旗を連想させるデザインの建物があり、そこは名桜大学の助成金やロンドリーナ市沖縄県人会の尽力も合わさって設立され、日本からの留学生や、日本に興味のある学生が勉強したり、集まったりする場所だそうです。ロンドリーナと名護は姉妹都市なのだそう。敷地内は日本庭園を連想させる中庭もありました。大学で休憩中に食べたブラジルのお菓子はものすごく甘くて食べるのに時間がかかりました。コンデンスミルクを煮詰めたお菓子だそうです。大学を出た後はロンドリーナの大きいショッピングモールへ。移動中レチーシアに安富祖のエイサーの動画を紹介すると、その動画を見入っていました。エイサーが大好きなようです。ショッピングモールはとても大きくて1日では全店舗回れないほどです。値段は一律ではありませんでしたが、ダイソーもありました。ショッピングモールにて日本食を選び購入すると、何を食べるか悩んでいるときに話しかけてくれた日系人のバイトの方が味噌汁とデザートをサビースで持って来てくれました。日本人ということで心遣いだったのでしょか。味噌汁を飲むとホッとしました。

■ロンドリーナ3日目（1月29日）

朝、かおるさん恵子さん宅のベランダに出てみると、シュハスコ用のグリルが備え付けられていました。ブラジルならどこでもシュハスコが好まれるのでしょうか、マンションのベランダでも出来るようになっていてビックリでした。朝食はプリシーラさん宅にて。この日の飲み物には恩納村でも特産品になっているアテモヤのヨーグルトのジュースがありました。恩納村もそのうちアテモヤのジュースを発売するのでしょうか。午前中は日系の方が管理しているロンドリーナ市文化体育協会 ACEL という所へ行きました。敷地は広大で、野球場やサッカー場、テニスコートがいくつもあります。秋篠宮同妃両殿下が訪問された記念碑もありました。ACEL の後に立ち寄ったガソリンスタンドの支払い方法が面白いと思いました。ガソリンを入れた後、ドライブスルーのように窓口で支払いをします。その後プリシーラさんの祖母のお宅にて昼食。スミコさんの家には仏壇もあり、先祖に手を合わせる習慣がブラジルで残っているのは不思議でした。

昼食後はなかがわとみ公園へ。鳥居がいくつかある公園で、日本移民100周年の記念にはめられた石もあり、日系人が多いエリアなのかと思います。そこから少し離れたところで、ビタミンというスムージー屋さんでリナさんはプリシーラさんの陽気な友人に足を外していた片方の草履を隠されるイタズラをされていました。ここはブラジルだよと言われていました。スムージーはバナナとアボカドを混ぜたもので、美味しかったが、サイズが大きすぎて、飲むに飲めませんでした。ロンドリーナ市にある湖にも行きました。RONDRINA という文字が設置されていて、観光客の撮影場所になっていました。夜になると光を反射してロマンチックな雰囲気になります。夕食はロンドリーナ県人会会長のしるま Luisさんと。ここでもお肉の料理でした。奥さんに通訳をお願いしながら話しをしました。途中からポルト

ガル語講座が始まり、終始笑いが絶えませんでした。ここで習ったポルトガル語は後日大活躍します。

■ ロンドリーナ 4 日目 (1 月 30 日)

恩納村にルーツのある荻堂ルイスさんのところへ。荻堂さんは島豆腐を作っている方です。この日は特別に私たち研修生の為に、島豆腐作りの見学する時間を作って下さいました。豆を水につける工程から、ミキサーにかけた豆乳をこす工程、など一人で手際よく行っていました。ミキサーに掛けた豆のカスを除く工程を繰り返し、豆乳を作っていきます。

豆乳、ゆし豆腐、しまどうふとそれぞれ食べましたがどれもとっても美味しかったです。週に2回朝早くから4、5時間かけて、母から受け継いだ味をブラジルに住んでいる方に届けています。沖縄の味を届けているウンナンチュがいると知り、誇らしいなと感じました。これからも島塗布作り頑張ってください。

昼食はたばたさんという方が営んでいるレストランで、恩納村の方々と。

昼食後は大豆やコーヒーの畑を見学しました。畑はどこまでも続いていて、終わりが見えないほど広大でした。ロンドリーナはコーヒーで有名な土地ですが、一時期寒波に襲われ、コーヒーから大豆の栽培に切り替える人もいたそうです。農園の帰りに寄ったカフェにて、コーヒーの受け皿にQRコードが印字してお店のPRをしているのが面白いなと思いました。夕食は荻堂さんのご家族と一緒に。すみこさんにて。地方や遠方に行くバスが集まる場所で、24時間開いているのだそう。そこでとても美味しい鶏肉の料理をいただきました。

■ ロンドリーナ 5 日目 (1 月 31 日)

朝から近くの市場へ。新鮮な野菜や果物、コーヒー豆やチーズなどが露店に並んでいました。お店で見つけた蜂蜜を購入。ブラジルでよく見かけていたが何かわからず聞いてみると、一回ずつ食べられるように、指先から第一関節までぐらいの大きさに小分けにされたものが連なっています。食べるときに噛み切るか、ハサミを使います。市場見学の後はコーヒーの講座へ。エリアや場所でコーヒーの淹れ方が違うことや、豆の選別、挽いた豆の粗さの違いなど色々教えてくれました。ロンドリーナはコーヒーで有名な土地ですが、パラナ州が予算を出し、品質の良い豆を作れるよう取り組みがあるそうです。州外からはコーヒーを作る工程や工場の見学や視察に来るそうです。カフェも観光地になっているようで、土地の特産物を大切に、観光資源としても活用されているようです。

昼食はすみこさん宅にて。味噌汁とカレーを作ってくださいました。午後はBOULEVARDというショッピングモール。へこちらもとても大きい。ロンドリーナは小さいロンドンという意味があるそうです。モールの中には赤い電話ボックスや赤色の軍の制服を来たマネキンが配置されていました。ここでいいなと思ったのは子連れの人に対応したスペースです。入り口は子供が喜びそうな小さなドアがあり、奥に進むと広々としたおむつ替えスペース。コの

字型に配置されたおむつ替えスペースは8台ほど並んでいました。隣は授乳スペースがあり、ストレス無く子供の世話ができそうな空間でした。受付でベビーカーを借りるのはすぐ利用したい人にとっては大変かもしれませんが、数の管理がしやすそうです。夜は県人会館にてバレーを通して交流。言葉は通じないけれど良い汗をかきながら、楽しい時間を過ごせたと思います。運動後はホットドックで有名なお店へ。バレーをした方も一緒に来てくれて、会話を楽しみました。その後は萩堂さんの娘のハケオやハケオの友達のいるところへ合流。ブラジルのカードゲームを教えてもらいながら交流を深めました。

■ ロンドリーナ 6 日目 (2 月 1 日)

六日目はプリシーラさんがバレーの試合に出場するというので、応援に。お父さんの薫さんはウシ&ナベ祝国吉家移民 100 周年と書かれた T シャツを着て応援に来ていました。お昼からは与那嶺カリンさんのお宅へ。カレンさんのお母さんが恩納村にルーツがあるそうです。みんなで食卓を囲みながら、お話ししているとおじいちゃんがちょくちょくウチナーグチを出してきて、ちょっとしたウチナーグチの勉強が始まっていました。ウチナーグチがわかるきわこさんが羨ましかったです。沢山食べた後は三線が始まりました。カレンさんが弾く三線に合わせてりなさんがピアノを弾きセッションしていて、とても心地良い音色でした。どこに行っても三線の音が聞こえると楽しくなるなと思いました。

カレンさんのお宅を後にし、県人会館へ。県人会館では琉球国祭り太鼓の練習が行われていました。小さい子たちの練習はお昼から始まり、青年は夕方まえから何時間も振りを確認したり、通したりしていました。それぞれのパートに分かれ、真剣に楽しそうに練習していたのが印象的です。沖縄の文化を好んでいる姿をみることができました。

夜には歓迎会を開いてくれました。ここで県人会長ルイスさんから教えてもらったポルトガル語を披露することに。ルイスさんのアドバイスを抑えていたきわこさん、りなさんは笑もっていました。会後半には、ロンドリーナと名護が姉妹都市 50 周年を迎えるということで、名桜大学とテレビ電話で交流しました。ロンドリーナに留学に来ていた学生やブラジルから名桜大学へ行っている学生が画面の向こうにいて、会ったことのある人は嬉しさからか、または実際に会えない寂しさからか、涙を流していました。交流があるからこそ、色々な感情を抱きつつ、絆を大切にしていこうという気持ちが育まれるのではと感じました。

■ ロンドリーナ 7 日目 (2 月 2 日)

この日も市場視察。前回訪れた場所とは違い、店の数、人の数が多く人がごった返していました。車を停める時にサポートする人が近づいてきて、右左と指示をだします。サポートした人へはお金を渡していました。

市場の後はブラジルの踊りフォーホを教えてもらいました。日頃体を動かすことがないの

で、基礎をこなすだけでも悪戦苦闘。思わず笑いが出るほどでした。またペアになって踊るものらしく、向かい合っでのダンスにどきまぎしました。大変ではありましたが、先生がとても面白く時間が過ぎるのが早かったです。

お昼は県人会長しろまルイスさんからご招待がありご自宅へ。川魚を焼いたものやスープをいただきました。ウチナーンチュと話もできてとてもたのしかったです。私たちはポルトガル語が、ルイス会長は日本語が話せませんが、よく話しかけてくれたり、写真を見せてくれたりと交わりを持とうとしてくれて、歓迎してくれていると感じ、有りがたかったです。

夜はプリシーラさん宅で2009年に恩納村に来た時の資料やビデオを見ながら話を聞きました。プリシーラさんは安富祖にルーツがあるようで、2009年に安富祖の青年会に参加し、エイサーを踊ったそうです。映像には私の兄や地元の先輩も映っており、ブラジルで地元のエイサーを目にするのは不思議な感じでした。三線や発表もすごく上手で、恩納村で研修を受けていた時に色々体験できたのかなと思いました。娘のレチーサはエイサーが好きな様子で、音が鳴ると高揚して、エイサーを踊る真似をしていて、沖縄のことを身近に感じる機会や話を聞く機会があるから、ウチナーンチュだと分かるんだなと思いました。

■ ロンドリーナ 8 日目 (2 月 3 日)

パッキングをし、空港へ。プリシーラさんと荻堂ルイスさんが空港まで送ってくれました。ロンドリーナでも色んなものを見ることができ、ブラジルでも沖縄を感じる機会があることを知れてよかったです。

■ サントス 1 日目 (2 月 3 日)

この日はあいにくの雨。視界が悪かったのか着陸態勢に入っていた飛行機が一度浮上。初めての経験だったので、不安にかられながらの飛行でした。

サンパウロの空港に到着し、津嘉山敏夫さんと合流。約2時間強の道のりを車で移動し、サントスへ。雨が降っていたため車から降りて見学とはいかなかったが、敏夫さんが建てたマンションを見ることが出来ました。外観は白色など清潔感を感じさせるデザインでした。不動産をしているので他にも所有していた建物もあったそうです。お昼はショッピングモールのフードコートにて。食後にはショッピングモール内にある敏夫さんが仕事帰りに寄るお店へ。そこはタイルやちょっとした家具が置かれているお店でした。仕事終わりに、材料の値段を見に来たりするなんて仕事熱心な人だなと思いました。

移動途中、敏夫さんの次女の旦那さんが経営する家具屋さんによりました。サイズの大きいソファやテーブル、棚などがありました。ブラジルの家はトイレやお風呂が2つ以上設置されていることがほとんどで、部屋が大きいから買い手がいるのかなと。その後はサントスのスタジアムに併設されているサッカー博物館へ。サッカーについては知りませんでし

たが、数々のトロフィーや有名な選手について紹介されていました。

コーヒー博物館へも行きましたが、休館日の為見学はできませんでした。併設されているカフェはオープンしていたので、そこで少し休憩することに。

夕食は津嘉山ファミリーが集まってくれて、シュハスコを頂きました。敏夫さんの周りの会話はウチナーグチになったりポルトガル語になったりと、意味は分かりませんが、耳が忙しかったのを覚えています。20名弱もの親戚が集まり賑やかでした。

■サントス2日目(2月4日)

早朝5時に宿泊先を出て空港へ。この日は敏夫さんのご厚意で、イグアスの滝を見に行くことになりました。イグアス国際空港到着後レンタカーに乗りアーヴェス公園へ様々な種類の鳥を見ることのできる施設です。フラミンゴやダチョウ、オオハシ鳥、オウム以外にもフクロウやワニや蝶々などもあります。

イグアスの滝を見学する為にボートに乗ることになりました。川の流れが荒れているところもあり、どきどきしながらの乗船でした。その後、イグアスの滝を眺めながらのコースを歩きました。近くに行くと迫力があり、水しぶきが飛んできます。壮大すぎて、少し怖く感じました。自然を感じることでできる場所です。人気の場所だけあって、人が多く写真を撮るのは一苦勞でした。反対側に位置する国アルゼンチンにもたくさんの方がいるようでした。人は多いが滝自体が大きいので、混むという事がほとんどなかったのも、素晴らしい観光資源があるなと思いました。イグアスも印象的でしたが、敏夫さんの話もずっと覚えています。敏夫さんの同級生との話や、お祝い事を一緒にやって同じ時間を共有したかった話など、人との繋がりを大切にしている人柄がみえました。ウチナーンチュにはそういうひとがきっと多いから、ネットワークも途切れていないのだと思います。

■サントス3日目、ブラジル出国(2月5日)

サントス3日目は敏夫さんの奥さん京子さんとランチをしに元日本人会館だった所へ。壁には昔撮ったものなのか、引き伸ばされた白黒の写真がでかでかと飾られていました。柔道の写真です。そのレストランには寿司職人もいるようで、握られた寿司を選んでいる人もいました。食後はサントス散策。海の横にある道をひたすら真っ直ぐ。サントス港までは行けませんでした。昔ここに到着した人たちはどういう人生を送ったのか勝手に想像を巡らせビーチサイドを歩きました。車中で南米に移民してきたことを話したりしますか?と聞くとあまり話さないとのこと。苦勞した話はあまりしたくないと、聞かれることはないか質問すると、その時は話すそうです。きっと大変だったこともあったはずだけど、見せないのはなぜかわかりませんが、たくましく感じました。

夕方にはパッキングを済ませ、空港へ。この3日間敏夫さんはサントスと空港の長い道の送迎も含め私たちをサポートして下さいました。

アメリカ、南米のウンナンチュ、ウチナンチュと触れ合う中で、沖縄に対する強い気持や、沖縄が大好きだという気持ちが伝わってきました。沖縄で住んでいても分からないことがあり、自分の関心が低いと思わされる研修でした。

いろんなものを見て、聞いて、感じることで研修に参加することができてとても嬉しいです。出迎えから、案内、見送りまで、何不自由なく過ごすことができ、無事沖縄に帰ってくる事が出来ました。これも関わってくれた方々が沢山のサポート、気遣ってくれたおかげだともいます。快く受け入れて下さった方々に感謝です。ウンナンチュ、ウチナンチュの繋がりが強く、すごいと感じた研修。皆が沖縄に来るといときは同じように迎えたいです。



修了証

恩納村派遣第6号

松崎 加奈子

令和元年度恩納村青年海外派遣事業に於いて、研修生として研鑽に励み、恩納村出身の海外移住者子弟等との絆を深めるとともに、国際交流に関する知識と経験を身につけられました。

よって研修終了したことをここに証します。

研 修 期 間 : 令和2年1月11日～令和2年2月7日

研 修 先 : ブラジル(サントス・サンパウロ・カンポグランデ・ロンドリーナ)
アメリカ(ロサンゼルス)

令和2年2月20日

恩納村長 長浜 善巳



研修報告書等
玉城 里那

玉城里那

研修 1 日目 1 月 10 日 (金)

10 時空港集合なのに、9 時 50 分にスーツケースが壊れました。家から空港が近いと安心して、集合時間 10 分前にスーツケースを閉めたところ、壊れていることが判明し急遽スーツケースチェンジ。10 時 20 分に空港到着し、せっかく恩納村からお見送りに来てくれている皆さんとしゃべることもできず、慌てて飛行機に乗り込みました。前途多難な出発になりました。

関西空港到着後、やっと今回の研修に参加するんだと実感がわいたと同時に、参加できる喜びを感じました。また、今回研修に参加するにあたり、1 ヶ月間も休暇を取らせてくれた勤め先に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

2016 年より世界若者ウチナンチュ大会に携わらせていただいておりますが、今回恩納村と、海外ウチナンチュとの絆を強くするため、アメリカ・ブラジルを回ります。どんな出会いがあるのか本当にワクワクします。1 ヶ月の研修で多くの絆を作ればと思います。

研修 2 日目 アメリカ 1 日目

1 月 11 日 (土)

アメリカロサンゼルス空港到着。寒い！

荷物を受け取り、まずは歯磨き。笑 久しぶりの長距離の飛行機に乗ると、歳を取ったと感じてしまいます。2008 年にブラジル等を回った際には、飛行機での辛さは感じなかったのですが、今回 30 オーバーの私にはちょっと辛いものがありました。笑 しかし、JAL 最高でした！

話を戻しまして・・・

空港では賢一とミシエルのアメリカ恩納組が来てくれるということで、紀和子と加奈子の沖縄恩納組より先にアメリカ組と合流し、カメラを構え、感動の再会を映像におさめようと待っておりました。しかし、待ち構えているときに気づきました。沖縄恩納組とアメリカ恩納組、これまで全然接点がない・・・笑 感動の再会は映像に残すことはできませんでしたが、緊張している両者のぎこちない出会いは撮れました。

渡久地ミシエ清子：2017 年に恩納村の研修生として参加

平田カート賢一：2018 年に恩納村の研修生として参加

ミシエルの身長は私より小さいのですが、どでかい SUV に乗っており、その車を簡単に運転するミシエルがかっこよすぎて、惚れそうになりました。

ミシエルのハウスでお父さん、お母さんに会い、6 人で向かったのはマクドナルド！今回 3 人で 2 つの国のマックを食べ比べようと話をしておりました。アメリカマックはまさにアメリカンサイズ！！！！私たちは興奮しまくりで全部たいらげました。量もボリュームです

が、ハンバーガーの肉もとても肉肉しく、とてもおいしかったです。

マックの後、私たちはロサンゼルス沖縄県人会館へ。

ロサンゼルス沖縄県人会またの名を北米沖縄県人会は、アメリカでも一番大きい県人会です。会館もとても大きく、日本語、沖縄文化、日本文化の学べる場所になっておりました。

また、会館の何か所の部屋は賃貸しており、その収入も県人会の予算となるそうです。

県人会館で働いている神谷ジョーイ（ルーツ：玉城村）照屋先生という琴の先生（出身：伊是名）にお会いすることができました。神谷ジョーイは若者ウチナーンチュ大会にも参加しており、2016年には県費留学生として1年間沖縄に留学しておりました。ウチナーンチュネットワーク構築の為、新しく北米県人会のFacebook等もジョーイが更新を行っているようです。照屋先生は結婚を機にロサンゼルスへ来たようです。ロサンゼルスで琴を教えるはや50年。お弟子さんもとってもたくさんいるようです。

その後クリスピードーナツを食べ、リトル東京へ。JAPANハウスという世界で数か所しかない展示室がロサンゼルスにあり、ちょうど戦争関係の展示をしておりました。時間が遅かったためすでに閉館しており、外からしか確認できませんでしたが、アメリカではどういふふうに戦争を紹介するのか興味がわきました。

その後ロサンゼルスにいる沖縄県人の若者たち何名か集まり、カラオケへ。やはりアメリカでもカラオケは人気でした。

アメリカで若者ウチナーンチュ達とふれあい、それぞれの生き方、沖縄への想いを確認することができました。

家に帰ると、ミシェルが急に「サプライズ！！」と言い出し、「明日はディズニーに行くよ！！！」と。マジかーーーーー！！と私たち3人とも夜なのに叫んでしまいました。

研修3日目 アメリカ2日目

1月12日（日）

昨日の夜の宣言通り、今日はディズニーランドに行くことに。

朝7時に起き、お母さんが協会に行く前にみんなで記念撮影をし、お母さんを送り出しました。

その後、お父さんの入れてくれたコーヒーの入ったタンブラーと共に、ミシエルのどでかいSUVで賢一ハウスに向かいました。

賢一ハウスへ、向かう道中、片手にアメリカ式のタンブラーを持った自分、そして乗ってる車がどでかいSUVで本当にテンションが上がり、ずっとミシエルとその向こうに映る景色を見ていました。「あー、私アメリカにいるんだ」と。

賢一ハウス到着後、賢一も一緒にディズニーランドへ。賢一ハウスからディズニーまではなんと15分ぐらいで着くほど近く、それだけでもテンションが上がりました。賢一は何故か行かないということで、女子4人でディズニーだ！ってなったら、ミシエルが友達と約束

しているといい、現れたのは「ディズニーで働いてるでしょ？」って分かる衣装を着たお兄さん。ミシェル、なんとディズニーのVIPでした。ミシェルはディズニーが大好きで、月に1度は来るそうです。ストレスたまったらディズニーへの的な感じで10万ほどする年間パスポートを持っているそうです。そんなディズニーVIPが隣にいるので、もうトイレ行きたい、あれしたい、これしたい、全部すぐ叶えてくれるのです。ディズニーの回し者です。アンバサダーです。友達は突然現れたり、突然消えたりするのですが、友達が現れると裏道を通れるのです。スターウォーズの部分の関係者のようで、スターウォーズ好きの私には本当に涙が出そうなくらいいい想いをさせていただきました。

あんなに広いディズニーですが、それぞれのエリアのコンセプトがしっかりしており、いろんな方々がちゃんと楽しめるようになってました。私はずっとスターウォーズにいときたいと思うほど、スターウォーズの世界がちゃんと再現されておりました。そこで働くスタッフ、食べ物。トイレの外装内装まですべて来場者を楽しませる工夫がされておりました。映像に関しても、沖縄では見たことのないVRのようにプロジェクションマッピング、映像と連動して動く乗り物、すべてが勉強になりました。

ディズニーを楽しんだ後、賢一の妹千恵美といこの寄子さんも合流し一緒に食事へ。恩納村への研修の話をする、千恵美も沖縄へ勉強しに行きたい気持ちはあるが、賢一の身元保証人を受けてた方が現在体調が悪いようで、頼みづらいとのこと。賢一たちは3世で、まだまだ沖縄に親戚は探せませんが、今後身元保証人の問題がいっぱい出てくるだろうと感じました。4世、5世になると、親戚なんて名前だけのものになってしまいます。いままであったこともない親戚となる人に身元保証人になってと言われても、どんどんOKしづらい関係性になっていくと思います。受け入れを続けるためにも、身元保証人の部分の条件を見直す必要があるかと考えます。

研修4日目 アメリカ3日目

1月13日(月)

賢一ハウスで時間がわからなくなり、みんなを寝坊させました。笑

朝、やっと会えた賢一のお母さんとおしゃべり。80年代に沖縄に留学へ行っています。その時はハワイの恩納村代表として参加しているようです。でも日本語を使わない時間が長かったため、言葉も忘れていとお茶目に話しておりました。

朝ごはんは近所のパンケーキ屋さんへ。夢にまで見た外国でのパンケーキ。おいしかったです。パンケーキがなくなるのが寂しい気分になりました。ミシェルは仕事を仮病で休み私たちに付き合ってくれました。

一度賢一の家に戻り、賢一のおばあちゃん(1世)の話聞くことができました。賢一のおばあちゃんは小さいころにハワイへ移民し、そこで畑仕事を手伝っていたようです。「昔はよく足を使った仕事をしていたから、足が丈夫なんだよー！」となんどもおっしゃっていました。おばあちゃんは何年前から認知症を患っており、賢一のお母さん一人でおばあち

やんの介護をしておりました。アメリカの介護制度は日本ほどよくなく、老人ホームへ入れるにはとてもお金がかかるそうです、また、ヘルパーもお金がとてもかかるということで、すべて賢一のお母さんがやっているということでした。

賢一はお父さんのお母さんは日本語をよくしゃべるけど、お母さんの方は全然しゃべれないといっておりましたが、私たちがずっと日本語でしゃべっていると、日本語がペラペラと出てきていました。特にウチナーグチで「美らかーぎー」というと本当にうれしそうでした。お母さんも賢一もおばあちゃんがこんなに日本語しゃべれるなんて思ってもみなかったとびっくりしていました。昔の記憶がよみがえったのかなと・・・。

おばあちゃんと別れ、加奈子のおばあちゃんの教え子の家へ。そこにいたのは池原とし子さん 89 歳。とても小さいかわいらしいおばあちゃんでした。30 歳の時にアメリカへ花嫁としてきました。沖縄にはすでにたえ子さんという娘さんもいましたが、まずは一人でアメリカへわたり、池原さんとの生活、ビザの調整が終わり、たえ子さんもアメリカに呼び新しい生活が始まったそうです。としさんは山田の方で。まさかの紀和子のなかなか近い親戚でした。世界は狭いと感じた瞬間でした。としさんの旦那さんは 10 年ほど前に亡くなっており、今は旦那さんの残した園芸で花を育てるので忙しくて寂しさなんて感じないとおっしゃっていました。娘さんが 2 人、息子さんも 1 人いて、孫もいるからと。

としさんの孫のミシェルとも合流し、恩納村研修の話をしました。ミシェルは日本語がとても上手で、今は大学院に通っており、来年の 6 月卒業とのこと。卒業後日本語の為に是非研修へ行くことを考えたいと前向きな回答がありました。

としさんの家でみんなで話していると、2016 年の世界のウチナーンチュ大会で恩納村人が集まって役場前で撮った写真が飾られており、渡久地ミシェルが、「これ私だよー」というと、それを聞いていたたえさんが、「その隣に映ってるの私！！！！」と大騒ぎ。まさかここで再開するとはと大興奮。ミシェルも 2016 年のこの写真のときに、城野さんに会い、研修の話を聞き、応募したと話していましたが、そのミシェルから研修の話を聞き応募した賢一。ミシェルが 2016 年に沖縄に来ていなかったら？城野さんがミシェルに声をかけていなかったら？もしミシェルが恩納村研修に参加してなかったら私たちは今アメリカにいません。こうやってとしさんたちにも会ってなくて、たえさんとミシェルが隣通しで写った集合写真もたまたま隣にいた人で終わっています。と考えると人生ってすごいなと感じました。本当にちょっとしたことで流れが変わるんだなと。本当に面白い、感動の繋がりを見せてもらいました。

その後ミシェルが通っている三線教室へ。三線教室には名護、大道、那覇、八重山出身の 1 世の方々がいまいました。その中で、ミ歇尔のお父さん 2 世、ミ歇尔が 3 世と 2 人の工工四はローマ字で書かれておりました。でもお父さんの沖縄への愛はハンパなく、とても一生懸命練習しておりました。(ミ歇尔も頑張っていました。唯一の若いホープです)

ミ歇尔が今日が最後ということで、みんなでタピオカを飲みに行くことにしました。アメリカでもタピオカがブームらしく、夜なのにお店はいっぱいでした。日本よりもタピオカが

大きい。笑 種類も豊富でとてもおいしかったです。

やはり別れはつらく、もうミシェルに会えないかと思うと寂しい気持ちでいっぱいでした。ミシエルのどでかいSUVにも乗れなくなる・・・ 本当に寂しいですが、これを今後につなげることが私たちが今回研修に来た意義だと思います。

研修5日目 アメリカ4日目

1月14日(火)

朝賢一のお母さんと、賢一と一緒に賢一家族、渡久地家族の関係を確認。ミシエは自分でアプリを使い、ファミリーツリーを完成させていました。自分の家族だけでなく、そこから繋がる人々のすべての名前と写真が載っていました。私はおじいちゃんおばあちゃんの兄弟の名前すらわからず、おじいちゃんたちがどこにルーツを持っていたなど全く分かりません。今回アメリカで会った二人は本当に自分のルーツに興味を持っており、おばあちゃんがいつアメリカにわたってきたのか、自分のお父さんの沖縄親戚の名前等すべてちゃんとしっかり把握していました。自分のルーツをたどることは本当に大切だと感じました。二人の家系図は今おじいちゃんおばあちゃんがなくなっても、容易に親戚はたどれるでしょう。しかし、私たちのようにわからなければまた最初から探さなければなりません。家系図どこまでたどれるかわかりませんが、沖縄に帰ったら家系図確認してみたいと思います。

賢一と85度というパン屋に行きました。85度は台湾企業のパン屋で、私が中国にいた時代からとても有名でした。そのパン屋がアメリカに進出しているなんて、台湾企業もさすがです。ミシエの家での朝ごはんも中国系のパンでした。アメリカでは中国系が作るパンはおいしいといわれているようです。中国で食べたことのある物もありとても懐かしくなりました。

実は今回の研修でずっとアメリカだけは乗り気ではありませんでした。今まで沖縄でかかわってきた世界のウチナーンチュたちも南米が多かったこともあり、移民＝南米という意識が強く、アメリカはいつでも行ける場所、南米ほど沖縄に熱い想いを持った人はいないと勝手に決めつけておりました。しかし、アメリカのウチナーンチュと触れ合ってみると全くそういうことはなく、南米と同じように沖縄へ熱い想いを持っていました。今回アメリカでも研修できて本当によかったです。新しいつながりを見つけることもでき、とても有意義な4日間でした。

お世話になったミシエ、賢一、渡久地ファミリー、平田ファミリー、本当にありがとうございました。

研修 6 日目 ブラジルサンパウロ 1 日目

1 月 15 日 (水)

朝 7 時半ブラジルサンパウロに到着。

2008 年の沖縄ブラジル移民 100 周年に参加して以来 12 年ぶりのブラジルです。ブラジルには沖縄でよく遊んだ栄子やウチナーンチュたちがたくさんいるので、本当に楽しみでしょうがなかったです。とっってもワクワクしながら (またカメラを回しながら) 空港を出ると、まさかの大きな横断幕と恩納村の旗を持った団体が!!! こんな朝早くに私たちの為に空港へ駆けつけてくれたことに本当に心が締めつけられました。とっっても多くの棚原ファミリーとサントスから津嘉山敏夫さん、敏夫さんの次女のゆかりさんが来てくれました。本当にうれしかったです。

ただ、栄子の隣にいる人が誰なのか聞こうと思った瞬間、まさかの栄子父! ただただ信じられず、しょっちゅう同じ質問をしてしまいました。「本当にお父さん? 本当のお父さん? お母さんの再婚相手?」それくらい若くて、大学生に見えました。久しぶりの栄子は沖縄にいたときと全く変わっていませんでした。

栄子は沖縄にいたときからブラジルのウチナーンチュから「栄子は本当に日本人」と言われていましたが、本当に日本人でした。ホテルのシャンプーリンスはあんまりよくないからと、私たちの為に準備しており、水もすべて用意されていました。

みんなでブラジルの朝ご飯を食べようと、ホテル近くのカフェへ行きました。ブラジルで飲むエスプレッソは本当においしくて、最高でした。そのまま着替えることもなく、街を散策へ! ブラジルでは曜日で開くフェーラーと呼ばれる市場があります。朝だけ開くフェーラー、夜だけ開くフェーラー……。初めて見るフェーラーは野菜がとても新鮮で、トウモロコシ、果物すべてがおいしそうに見えました。沖縄でたまに食べていたパステウと呼ばれるパイ生地のようなものに包まれたものなど、ブラジルを感じました。県費で去年沖縄にいたブルーノも一緒にサンパウロで大きな協会、JAPAN ハウスを回りました。JAPAN ハウスでは時差ボケなのか頭が割れるように痛く、ソファーに座った瞬間目が閉まっておりました。ちょっとホテルで休憩し、夜は栄子父、栄子弟、そして沖縄でよく一緒に遊んだ若者ウチナーンチュたちが集まってくれました。そして本場ブラジルのフェジョアードを食べました。本当においしくて、何度もおかわりしてしまいました。ブラジルのビールがオリオンビールに似てちょっと薄かったのもびっくりしました。ブラジル式誕生日のやり方も教えてもらい、とても楽しい夜でした。

研修 7 日目 ブラジルサンパウロ 2 日目

1 月 16 日 (木)

ブラジル二日目は 2017 年にアメリカのミシェルと同じ時期に恩納村へ研修へ来ていた棚原国広、通称クーニーが車を出してくれました。栄子と 5 人でサンパウロで一番大きな公園へ。そこで自転車に乗りサイクリングをしました。木もとても大きくて、突然降った雨もし

のげるほどでした。ブラジル人は公園が大好きなのか、子連れだけでなく、友達同士とみられる若い集団もたくさんいました。クーニーは歌がうまいと有名でした。とても小動物のようなかわいい感じの金髪少年になっていましたが、優しくてかわいかったです。その後初めてのタピオカで作ったパオを食べました。とてもタピオカ粉を素焼きし固めたものです。これもブラジルの名物のようでお店も人がいっぱいでした。クーニーは仕事があるため栄子と4人でサンパウロの芸術的な街へ。坂道が印象的で、壁という壁に画が書かれておりました。その後日本移民歴史博物館へ行き、移民の歴史について学びました。すべて日本語訳もされており、とても詳しく学ぶことができました。また、展示室に置かれている機械で、名前を入れると、その人と思われる人が何年にどの船でどこの港に着いたかがわかるものがありました。本当に多くの方が日本から移民してきており、またその中でも沖縄から出発している移民の方の割合が本当に多かったです。移民してきた方は、豊かさを求め日本から出発し、言葉も通じない異国の地でひたすら必死に働き、今の成功をつかみ取っています。やはり中には成功できず、まだ貧しいままの移民の方がいます。逆に豊かさを求め2世、3世、4世は日本へ出稼ぎへ来ております。この移民博物館を見て、移民とはどういうものなのか考えさせられました。2008年にブラジルでインタビューした方の中には、「自分が何人なのかわからない。ブラジル人にもなりきれなければ、もう日本人とも言えないぐらいブラジルに長く住んでいるため沖縄に居場所がない。」と。今回恩納村の方々にも聞いてみたいなどと思っています。

研修7日目 ブラジルサンパウロ3日目

1月17日（金）

今日は朝から私のお父さんのいとこに会うため、棚原栄作さん（栄子父の弟）と栄子のおばあちゃん（みつこさん）と共にサンパウロから車で4時間ほどの街イタリリへ。途中サントスにより、津嘉山敏夫さんと合流し、一緒にイタリリへ。去年弟もおじさんのところへ行く際に敏夫さんに連れて行ってもらっております。今回栄子のおばあちゃんみつこさんもイタリリで育ったということで、みんなで行こうとなりました。イタリリまでの道は本当に遠くて、栄作さんにとっても申し訳なくなりました。しかし皆さん、沖縄に比べたら近いよ！とずっと言ってくれて本当にありがたかったです。

イタリリに着くと、和子という名護の人がやっているレストランで焼きそばを食べました。ブラジルで焼きそばと言われるものは、全部あんかけそばみたいなものを指します。とてもおいしかったです。イタリリでみつこさんのおじさんに当たる屋良さんに会い、屋良さんの家でお茶を飲みました。屋良さんも屋良さんの奥さんも皆さん1世で、家の仲はずーっとウチナーグチでした。ここは沖縄じゃないかと思うぐらいにウチナーグチとかめーかめー攻撃だったので、やっぱりみんな同じウチナーンチュなんだなと感じました。

イタリリでは屋良さんのことを知らない人はいないのではないかとというくらい街で会う人会う人みんなとあいさつをしておりました。屋良さんはイタリリとその周辺の地域に住む

日系人の健康状態管理をする機関のボランティアで通訳等もやっていたようです。私のおじさんのことも知っており、一緒におじさんの家に行くことになりました。12年ぶりに会うおじさんは足も悪くなっており、元気もありませんでした。私の祖父が亡くなってからはブラジルにいる親戚とほとんど連絡が取れなくなりました。1世、2世の方は兄弟、いところが沖縄にいるということにつながりを保つことができますが、3世、4世になると親戚が誰かわからないという状況の方が多くなっていきます。そこで、新しいつながりが大事になります。今回、おじさんの孫に会うことができ、SNSを交換しました。また、孫の一人は14歳の時に三線にはまったようで、現在一生懸命三線を勉強中です。17歳なので、まだまだ先ですが、名護の研修生として応募するよう勧めました。その時は私たち親戚でも暖かく迎えてあげたいと思います。こうして一人沖縄に来ることで、親戚づきあいもまた新しく始めることもできます。親戚が無理なら、友達に会いに沖縄へ行きたいと思うような環境を作っていきたいとまた強く思いました。ウチナーンチュたちは沖縄とのつながりを本当に求めています。

研修 8 日目 ブラジルサンパウロ 4 日目

1 月 18 日 (土)

今日は朝からうりずん会の会長照屋みゆきがと共に二一セーターツアーを見学に行きました。うりずん会とは県費留学生、市町村研修生、JICA 研修、ジュニアスタディー等で沖縄で学んだ方たちの集まる会です。現在は 100 名ほどがメンバーしており、栄子もクローニーもその一人です。栄子は仕事ということで、みゆきが案内してくれることになりました。ブラジルで一番大きな沖縄県人会館のあるセントロカルチュアルへ行き、二一セーターツアーを見学しました。

二一セーターツアーとは、南米のウチナーンチュの若者を中心にブラジル、ボリビア、アルゼンチン、ペルーとそれぞれの国の県人会青年部が中心となり企画運営し、毎年持ち回りで若者同士の交流をさせております。去年はボリビア、今年はちょうどブラジルでした。1月9日から19日まで74名の若者が参加し、自分のルーツ、家族の大切さ、沖縄系社会、沖縄文化ワークショップ（エイサー、三線、琉舞、獅子舞など）そして沖縄戦について学びました。この二一セーターツアーは10年ほど前から行っているようです。沖縄県が実施するジュニアスタディーツアーという世界のウチナーンチュ中学生、高校生と沖縄の中学生高校生を交流させるというプログラムがあり、それに倣って、南米同士のつながりも作るべきではないかということで始まったようです。このツアーに参加すると本当に一気同年代のウチナーンチュと仲良くなることができ、又 SNS を通じて多くの情報交換が始まります。今回見学したのが最後の日ということもあり、みんなとても仲良しでした。

午後は沖縄県人会本部を視察。ここの県人会館にも大きな首里城が書かれた垂れ幕があり、沖縄への想いを痛感させられます。夕方からはビラカホンという沖縄の人が一番多く住んでいるといわれる場所にあるビラカホン沖縄県人会館で琉球国祭り太鼓の練習を見学しま

した。熱気がとてもすごく、約 50 人が一生懸命沖縄の歌に合わせて練習しておりました。沖縄に行ったことない子たちもたくさんいましたが、エイサーを通して沖縄に興味を持ち、そこから「沖縄」というアイデンティティを感じる子もいっぱいいるだろうと感じます。この文化が持つ力は本当にすごいと思います。

その後うりずん会が私たちの為にシュハスコを準備してくれており、クーニーの家で 30 名ほどが集まり歓迎会をしてくださいました。同世代が集まり、いろいろな話ことができました。懐かしい顔もいっぱいあって、本当に楽しい時間を過ごすことができました。私たちはこんなに沖縄のことを思ってくれているこの人たちの為に何ができるのでしょうか？本当にブラジルは遠いですが、ウチナンチュとしての心は本当に同じだと再確認できました。

研修 9 日目 ブラジルサンパウロ 5 日目

1 月 19 日 (日)

朝、栄作さんが迎えに来てくれて、私たちは棚原家のおじいちゃん（栄一さん）が開いた金物屋を見学しました。とても大きく、種類が豊富でした。またその近くに、栄一さん長男の栄さん（栄子父）の運営する電気系統を扱うお店、次男の栄次さんが運営する内装用具店も見学しました。栄一さんのお店は今 3 男の栄作さんが継いでおり、家族で経営しております。休みは日曜日だけと、本当に皆さん働き者です。栄一さんは高校卒業後一人ブラジルへ来ております。一生懸命、本当に一生懸命働いて今の家族、そして暮らしがあるのだと思います。栄一さんにブラジルの生活はどうか？と聞いたところ、もうブラジルが長いからこっちのほうが住みやすいと言っておりました。本当にとても仲良しな棚原ファミリー。いつか私もこんな家族を持ちたいと思わせてくれるように本当にいい家族でした。

夜はサンパウロ恩納村県人会の皆さんが歓迎会を開いてくださいました。50 名ほど 12 家族ほどが参加してくれ、カラオケをしながら食事を楽しみました。棚原家は本当に全員歌が上手！！なんで？というくらい上手です！みんなにも聞かせてあげたい。ブラジルサンパウロにこんなに恩納村の人がいたなんて本当に感無量です。こんなに暖かく迎えられ。そして、やはりやさしさの棚原家。棚原家に上げたお土産を、全家族に分けておりました。今度はもう少しお土産持っていこうと思います。

サンパウロの皆さん、本当にありがとうございました。

研修 10 日目 ブラジルクンボグランデへ移動

1 月 20 日 (月)

サンパウロ最後の朝は栄子と栄子父栄さんが迎えに来てくれました。本当にサンパウロが楽しすぎて、ずっとサンパウロにいたいと思っておりました。笑

2 人に見送られ。飛行機に乗り着いたカンボグランデは与那国島の空港にそっくりでした。

とっても青い空、白い雲、暑い日差し、沖縄かと思いました。出迎えてくれた良子さんをはじめ、沖縄県人会の皆さん。そして孫娘真凜と友人真奈美とかおり。本当にありがとうございました。良子ハウスでは圭子さんがシュハスコの準備をしておりました。2人は2019年11月に恩納村へ帰ってきており、その際に一緒にご飯を食べに行ったり、玉城ハウスでブラジル料理を作ってもらったりしました。圭子さんは沖縄にいるときよりもとっても元気ではつつとしていました。久しぶりに食べる圭子さんの料理は変わらずとてもおいしくて、感動しました。

また、良子さんと圭子さんのいところにあたる姉ちえこさんと妹さゆりさん。ちえこさんの息子雄二もきており、雄二とは恩納村の研修についてたくさん話しました。是非沖縄行って勉強したいといっております。早ければ今年の研修に応募してくるかもしれません。カンポグランデはサンパウロより年齢層は高めです。集まっていたいた沖縄県人会の皆様はほぼ名護の人でした。夜も圭子さんのおいしい料理を食べて、早めの就寝をしました。

研修 11 日目 ブラジルカンポグランデ

1 月 21 日 (火)

サンパウロにいるときはとても緊張していたからなのか、全然眠くならず、寝ても3時間ぐらいで目が覚めていましたが、カンポグランデー1日目9時間寝ました。笑 良子さんの家は本当にお家のようにとても居心地がよく、甘えてしまいました。朝から洗濯をして、みんなで近くの公園へ。公園では野生のカピバラが!!!しかもとても多い。コモドドラゴンの小さいバージョンのトカゲや、クアッチーと呼ばれるアライグマの鼻が長いバージョンみたいなやつとかがいました。本当にサンパウロと違って人がいない!笑 道に迷ったときに聞ける人が通らないぐらいとても広い公園でした。サンパウロでも公園行きましたが、人がたくさんいました。野生動物の方がいっぱい会えた、そのくらいのんびりしたカンポグランデです。その後、博物館へ。なんだかわからない少数民族の展示場を見ましたが、インディアンを彷彿させる羽の使い方をする少数民族でした。隣には動物の展示室もありました。ここの展示の仕方がまた面白い。日本では壁に展示物が掛けられてることが多いです。しかし、ここは壁の内側に展示物が掛けられているのです。壁に印刷された写真がたくさんあって、そのいたるところに小さな穴が開いてて、そこを覗くと中のたくさんの動物の標本がみられるのです。なかなか見たことのない方法です。子供たちに大人気でした。キワ子さんも興奮しておりました。

戻ってからは、コック圭子がまたまた料理を始めます。今日は寿司だよ!と得意げの圭子さん。しかし、私の心の声は「やばい・・・米絶対まずい」。サンパウロで食べた寿司がなかなかやつで、米がおいしくないのです。2か所で食べましたが、2か所とも魚だけを食べました。圭子さんがつくるものを残すわけにもいかないしどうしようと考えていたら、寿司が出てきました。

ちゃんとした寿司の形をしています。サーモンづくしでしたが、見た目はサンパウロより合格です。3種類でございました。沖縄でもよく見かける普通にサーモンの切り身がのっているサーモン寿司。サーモンを細かく切ったと思われるものがマヨネーズと和えられたものが中に入っている巻き寿司。最後に、何かわからない長方形の形をした小さなものが米の上になり、それをたまご寿司のように細い海苔でおしゃれに巻かれた題名のない寿司。まずは、ノーマルサーモン寿司へ手が伸びます。やばい。米がうまい。一言目「米うまい」でした。寿司の時は、ちょっと割高の日本の米に似た米を使用するようです。しかしレストランでは、普通の米で寿司を作るのでおいしくないと言ったコック圭子はおっしゃってました。そして次に題名のない寿司を恐る恐る口に入れてみると。。やばい。なにこれ？触感面白い！味も最高においしいのです。コック圭子は自慢げに言うのでした。「サーモンの皮だよ」と。サーモンの皮をゆっくりカリカリになるまで焼き、特製の甘だれにつけて食べるのです。感動しました。そして最後に巻き寿司を食べたときは、もう叫びました。本当においしかったんです。また柔らかいサーモンの中になにかカリカリのものがありませんでした。またコック圭子は自慢げに言うのでした。「サーモンの皮だよ」と。先ほどのカリカリサーモン皮を細かく砕きそれを一緒に和えているのです。最高でした。聞くと、コック圭子、数年前までは寿司職人だったようです。地元では非常に有名な寿司屋を営んでおり、今は息子さんが継いでいるようです。料理がもともと好きで、小遣い稼ぎで始めたと言っておりましたが、だれに習うこともなく、独学でやっていたそうです。しかし本当においしかったです。日本でも絶対売れると思います。カンボグラデ来て本当に圭子さんのおいしい料理ばかり食べて幸せです。

研修 12 日目 ブラジルカンボグラデ

1 月 22 日 (水)

なぜでしょうか？カンボグラデ本当に眠れるのです。ホッとしているというか、良子ハウスが持っている独特の雰囲気だと思うんですが、とてもゆったりと時間が流れます。朝からコック圭子のおいしい手料理を食べ、女子会です。良子さんの孫の真凜の友人真奈美とかおりがいつも朝ごはんの時にやってきて総勢 8 人で女子会です。学校のことや、料理の話、沖縄の話、良子さんと圭子さんの移民してきた時の話。いろいろ話をしました。

その後若者隊は街に散策へ！ブラジルのお店は何といてもでかい！絶対年間の迷子数ハンパないだろうなと思うぐらいでかい！お店もでかいのですが、売られているものもでかい！業務用スーパーでしか見ないようなサイズのもものがふつうにたくさんあります。私の大好きな「guarana」という飲み物があるのですが、2.50サイズが！！ダンベルかと思えました。サイズがアメリカンサイズです。でも気づきました。アメリカよりはまだまだもう少しかわいい感じです。見るものすべてが日本とは全く違います。肉の売り方、お茶の売り方、すべてが新鮮です。

夜は沖縄県人会のみなさんとフェーラーへ。着いてみるといたるところに「SOBA」の文字

が！サンパウロで次カンボグランデ行くと伝えると、みんな口々に「沖縄そば通り」があるよ！と。「道の両サイド全部そば！200 店舗ぐらいあるらしいよ！」という人も。200 店舗はなかったですが、本当に両サイドすべて「SOBA」の文字がありました。22 店舗の店でそれぞれの沖縄そばを提供しているようです。その中の一つのお店の半分を占領し県人会の方々と食事しました。カンボグランデに来たきっかけ、カンボグランデの街の話、沖縄県人会の話。。ここでもとてもたくさんのお話が聞けました。そして、しゃべっている人ほぼ名護の人！笑 名護生まれの私はとっても嬉しくなりました。その中でも、名護の真喜屋という地域の方たちが多いとのこと。昔真喜屋出身の4名がカンボグランデに移民してきて、その人たちが成功し、呼び寄せ移民で親戚がいっぱい来ているとのこと。また、この沖縄そばも、もともとはウチナーンチュ（勝連さんとなんとかさん）が屋台で沖縄から移民してきた人たちの為に出したのがおいしいと噂になり、そこからどんどん増えていったようです。今ではカンボグランデの観光の一つになっているようです。いろいろなお話とおいしい沖縄そばが食べられてまた幸せな一日でした。

研修 13 日目 ブラジルカンボグランデ

1 月 23 日（木）

朝 4 時に起き、5 時には家を出てマンションの下へ。しかしおっちょこちょいの良子さん。本当の集合時間は 6 時でした。

この日は良さんが車をチャーターしカンボグランデから 4 時間のところにあるボニートという場所へ。前日、朝ごはんとしてたまごサンドを作り、車でコーヒーも飲もうとポットに入れて持っていきました。運転手から車の中は飲食禁止と言われましたが、飲まないということで持ち込ませてもらいました。みんなが絶対こぼすって言っていましたが、こぼさないという根拠のない自信がありました。結局寝ている時にこぼしていました。そして良さんが運転手に怒られていました。ごめんなさい。ボニートは本当に遠くてほぼ寝ていましたが、ついたらもう「自然！」「田舎！」って叫んでしまいそうになるくらいの場所でした。良さんのいとこのさゆりさんの伝手で少し安くしてもらったようですが、とてもお金がかかったと思います。ありがとうございます。

ボニートはブラジルでもとても有名な観光地です。沖縄で例えると赤島みたいなところ。それくらい田舎です。私たち、まず川下りをする事になり、みんなで全身ウェットスーツに着替えました。その時言われたのは、「化粧 NO！日焼け止め NO！」でした。自然を守るためだそうです。本当に徹底していいました。沖縄が学ばないといけないところだと思います。川は本当に澄んでいました。海藻もたくさんあり、魚もぶつかってしまうんじゃないかというぐらいいっぱいいました。川下りは足もつけてはいけないということで、本当に流れに任せ流されていくという感じです。川の流れに身を任せ生きております。浮いていると本当に色々見えました。野生の猿、虫のたまご、なんだかわからない鳥、本当にたくさん動物がいました。サルは本当に感動しました。

研修14日目 ブラジルカンポグランデ

1月24日(金)

今日もボニートから始まります。昨日とはまた変わり、今日は山へ。先ず自然公園です。自然公園というぐらいなので、こちらまだたくさんの自然がありました。ここにもサルが出現！たぶん昨日と同じサルです。別にサルが好きというわけではありませんが、やはり沖縄で絶対出くわさない動物を見ると感動します。この人たちはいたって普通でした。私たちが沖縄で野生のヤドカリをみるのと同じ感じなのでしょう。ここにはさらに野生のオウムも！ペットショップでしか見たことないあのオウムレッドバージョンです。きれいでした。その他にも、ラマ（飼われている）、水牛（飼われている）もいました。水牛は乗ることもできて、一番はしゃいでいたのは圭子さんでした。

午後は洞窟へ行きました。ガイドもついて私たちのほかにもアメリカからの旅行者などもいっしょです。洞窟へ行く道のりもとても徹底しています。網のネットで頭を覆い、その上からヘルメットです。髪の毛が落ちないようにだそうです。山道を10分ぐらい歩くと今度は下りです。本当にとっても急な崖になっているところを一步一步降りていきます。ここで一番元気だったのは良子さんと圭子さん。二人は最年長なのにずっと前の方を歩いています。階段もどンドン降りていきます。本当にこのツアーを楽しんでいるようです。もちろん私たちも楽しんでますが、圭子さんは目をキラキラさせていました。階段を降りきると青い池みたいところが出てきます。青の洞窟と呼ばれているようで、本当に幻想的でした。何万年もかけてこの池ができています。気の遠くなる長さですね……。本当にきれいな場所でした。ただ、ヘルメットが小さくて頭が入りませんでした。あつ、私の頭がでかいのか。。笑

カンポグランデへ4時間かけて帰りました。家についた瞬間、良子さんが米を炊き始めました。「米が食べたくてしょうがなかった。一日でも食べないとダメです」って言っていました。日本人より日本人ですね。ちなみにブラジル料理はよく米が出てきます。フェジョアーダという食べ物や、フェジョンと言われる食べ物の時は、ほぼ隣に米がいます。今回のボニートでも普通に米がでてきました。でも良子さんがいう米はたぶん自分の家で炊いた日本式の米のことなのだと思います。どんなに長くブラジルに住んでいても、そうなるわけですね。私は米が好きすぎて、中国にいたときはあまり米を食べませんでした。中国の米はパサパサでおいしくなく、私の中の「米」ではなく食べられませんでした。なので、たまに沖縄に帰ってきたときにはまず家で米を炊き、米だけを食べることでした。日本の米は本当に最高だと思います。今度ブラジルには米を持っていきます。

話を戻し・・・

こんな疲れて帰ってきてても圭子さんはおいしいご飯を作ってくれました。本当にチャチャチャとすごい料理を作ってくれるんです。本当にありがとうございます。

みんなとっても疲れていたのか、ご飯食べたらすぐ就寝しました。

研修 15 日目 ブラジルカンポグランデ

1 月 25 日 (土)

朝、2 日ぶりに食べる圭子さんのスクランブルエッグ、やっぱり安定のおいしさでした。今日はちょっとゆっくり起きて、まなみとかおりも来てフェーラーに買い物へ。カポエラー軍団にも遭遇し見学しました。ゆったりした踊り？武術？で、歌に合わせて回っていきます。体が柔らかくないとできないですね。お土産のコーヒーを 6 キロ、マテ茶を 2 キロ買いました。買いすぎました。

今日は沖縄にいるルーカスから連絡があり、ルーカスの友達が紅型のワークショップを行うということだったので、県人会館へ。しかし、いつの間にか日曜日に変更になっていたようで、私たちはちょっと県人会を散策。カンポグランデの県人会館もとても大きくて、外には屋根付きのバスケットコートみたいなのところもありました。カンポグランデで 3 か所目の県人会館ですが、それぞれ本当にとっても大きくて、舞台がある体育館というかホールには、必ず首里城が書かれた大きな垂れ幕があります。ウチナーンチュにとってやはり首里城は自分の故郷、ルーツを表す一番の形あるものだったのでしょう。だからこそ首里城があのようになってしまうときに一番素早く動いたのが海外にいるウチナーンチュたちでした。Facebook でもウチナーンチュたちの首里城で撮った写真と嘆きのコメントがたくさん出ていました。首里城は無意識のうちにウチナーンチュのアイデンティティみたいなものの象徴になっていたのでしょうか。たぶん。

夜は圭子クッキングスクールです。沖縄にいるときに圭子さんにコシーニャを作ってもらってからコシーニャが大好きです。そのコシーニャを覚えて帰ろう！と思って、カンポグランデ着いた日に圭子さんをお願いしました。作り始めた時間は夜 10 時頃。本当に大変な作業でした。キワ子さんと 2 人だったんですが、途中からもう心が折れかけてました。ブラジル料理は本当に手間がかかる。コシーニャは中に肉が入っているんですが、この肉を作るのも時間かかりますが、それよりなにより生地です。すごく難しかったです。生地で器を作るのも難しかったです。肉を入れて後に蓋をするのもとても難しかったです。形がとても汚いコシーニャがたくさんできました。やっとすべての生地がなくなったので、終われるー！！と思ったら圭子先生が「じゃあ今度はヒゾールね」とまた新しく生地を作り始めました。12 時まわってました。私もキワ子もズドンってなり、一気にしゃべらなくなりました。笑 しかし奇跡的に材料が足りず、明日作ることになりました。うれしかった。笑

研修 16 日目 ブラジルカンポグランデ

1 月 26 日 (日)

昨夜、圭子先生が「明日はヒゾールとフェジョアードを作らないといけない。いっぱいお客さんくるから 9 時ごろからやろう」って言って眠りについたので、9 時まで準備をしておかなきゃと思ったのですが、なぜか朝 7 時頃目が覚めてしまい、一人ぼーっと椅子に座ってました。すると 7 時過ぎ圭子先生が来て、「じゃあ行こうか」と……。料理教室の始

まりです。まずはヒゾール。昨日のコシーニャと形が違う食べ物です。昨日を経験しているからか、とても簡単に感じました。そしてフェジョアーダの始まりです。フェジョアーダとは黒豆みたいな豆と豚肉、チラガー、ミミガーなどを一緒に煮込むブラジルを代表する料理です。とつても手間がかかるので、ブラジルでも水曜日と土曜日だけ出すお店もあるようです。昨日の夜で豆は選別完了していたので、今日は煮込むだけです。しかし、考えが甘かった。煮込む時間がハンパない。朝9時から煮込みはじめて、水を替えたり、味足したり、出来上がったのは13時頃です。本当に大変な作業です。圭子さんになんでこんなに料理が上手なのか聞いたところ、「好きだから」の一言でした。圭子さんは日本料理だけでなく、ブラジル料理も、西洋風の料理もします。ブラジル料理は全部自己流のようです。でも本当においしかったです。ここまでチャチャチャと料理をしていくのを見ると、家でちゃんと料理してたべようと思いました。料理が楽しそうに見えました。

圭子さんの料理ができたころ、良子さんの友達のタマシロ夫婦さん、いとこのちえこさん、さゆりさん姉妹が来ました。最後のお昼です。タマシロさんはどこの人だったか忘れましたが、私の親戚にそっくりでした。もしかすると親戚かもしれません。

この後は県人会館へ行き、昨日空振りした紅型のワークショップとエイサー団、そしてカラオケ同好会を見学しました。カラオケ同好会は70歳以上のおじいちゃんおばあちゃんが20人ほどいて、ただただ自分の好きな日本の歌を歌うという感じです。皆さん本当にずっと歌っています。キワ子と2人歌わないと帰さないということで、なにか歌って帰りました。まだまだ元気なおじいちゃんおばあちゃんでした。

エイサー団は沖縄市安慶名の青年エイサーと、名桜大学のエイサー、そしてカンポグランデで空手を教えている先生が考えた空手の型が組み合わさった伝統エイサーでした。海外のウチナンチュたちはどちらかという創作エイサーです。創作エイサーの方が入り込みやすいからです。そのなかでカンポグランデは伝統エイサーを選んでおります。これは本当にすごいことだと思います。かっこよかったです。

最後に志良堂さゆりさんという方のお家にも遊びに行きました。彼女のおじいちゃんが三線を直す仕事をしていて、それに興味を持ったさゆりは沖縄に県費留学生、そして本部の研修生として名桜大学で勉強していました。県費留学生の時は三線工房へ一年間修行しています。その技術を持ち帰り、家の片隅にある工房で、ブラジルのいろいろなところから集まった修理の必要な三線を直しています。思いがとてもすごかったです。こういう若い人が沖縄の文化の担い手になっていることがとてもうれしいし、すごいことだと思います。このような沖縄の文化を極めたいという子がまだまだたくさんいます。その中で、県、市町村がやっている受け入れ事業は本当に大切なものだと思います。是非恩納村もそのまま続けてほしいです。

研修 17 日目 ブラジルカンポグランデ→ロンドリーナ

1 月 27 日 (月)

朝荷造りをしていると圭子さんが、「これ悠と咲子に」とお土産をたくさんもらいました。本当にたくさんもらいました。あり得ないくらいにいっぱい、私のスーツケースはほぼ 2 人へのお土産になりました。「これは全部自分の地元から持ってきた！」と自慢げに話す圭子さん。圭子さんの住む街はカンポグランデからバスで 15 時間行った場所にあります。カンポグランデにも売っているお菓子がほぼでしたが、15 時間もバスに乗って持ってきたのかと考えると、圭子さんの温かい気持ちが伝わりました。圭子さんの住んでいる地域はあまり日系のいない場所で、圭子さんの友達はみんなブラジル人のようです。日系人が少ないからカラオケが全然ないと言っていました。日系人、ウチナンチュも含めてどんだけカラオケ好きなんだー！と思うぐらいカラオケ大好きです。笑

私たちは最後の圭子さんが作る食事を頂き、出発しました。良子さん、圭子さん、真凜本当にありがとうございました。本当に楽しいカンポグランデでした。そして自分の家にいるかのようなとてもゆったりとした気持ちで過ごせました。最高です！！

多くの人に見送られ、私たちはロンドリーナへ出発しました。

ロンドリーナに着くと、いつものようにビデオカメラを回しながら出口を出ました。これまでで唯一度もあったことのない方の家にホームステイをするということで、なんだか緊張していました。しかも、カンポグランデを出発するときにプリシーラさんに連絡を入れましたが、返信がありませんでした。それも有り、少しドキドキしていました。今までの 2 つの場所は荷物を取って、出口を出るとすぐわかる場所に皆さんがいましたが、ロンドリーナはちょっと進んでもそれらしき人がおりません。笑 なかなか心配になり「やばい、迎えに来てないんじゃないの?!」「ってかプリシーラさんどんな顔?!」とちょっと慌て始めた私たち。しかし、ちゃんと来てました。出口から一番遠い場所に待っててくれました!! 笑 プリシーラさん、荻堂ルイスさん、ルイスさん娘のハケオ。ありがとうございます。

ロンドリーナもブラジルですが、やはりサンパウロとも、カンポグランデとも全然違いました。街がサンパウロよりは田舎ですが、カンポグランデよりはなかなか都会。とてもきれいな街でした。色で例えると・・・ピンクですかね? ちなみに、サンパウロはちょっと灰色、カンポグランデは茶色です。家に着くと、とてもかわいいキッズがお出迎え。レチーシア、プリシーラさんの娘さんです。顔はアリアナグランデをもう少し柔らかくした感じ、モデルのように長い手足。4 歳にして、すでに女子でした。笑 プリシーラさんのお父さん、国吉かおるさん、プリシーラさんのお母さん国吉けいこさん。そしてレチーシアの弟のルーカス。ルーカスは去年の研修生が来た時はまだお腹の中にいたようです。でもすごいのが、後 1 ヶ月で生まれるルーカスがお腹にいながら研修生を迎えたプリシーラさん! 本当にすごい。そのルーカスがもう 1 歳になります。こうやってどんどんつながっていくんですね。私たちはかおるさんとけいこさんの家に泊まることになりました。じゃんけん勝ち一人部屋ゲット! 笑

研修18日目 ブラジルロンドリーナ

1月28日(火)

ロンドリーナ2日目は、朝ゆっくり始まりしました。ロンドリーナもまたサンパウロ、カンポグランデと違いました。サンパウロほどせわしい感じはなく、カンポグランデほどゆったりしていない。とてもちょうどいいテンポという感じです。プリシーラ姉さんの家でゆっくり朝ごはんを食べ、それからロンドリーナ州立大学へ。噂で聞いていたロンドリーナ州立大学。名桜大学と姉妹校で、それぞれ毎年交換留学を行っています。若者ウチナンチュ大会の参加者もこの交換留学生が2,3人いました。この話を聞いて、名桜大学生になりたいと何度思ったことか……。1年間こんないい場所で勉強できることがとてもうらやましいです。プリシーラ姉さんの母校でもあるロンドリーナ州立大学ですが、とっても大きくて、とってもきれいでした。野生の猿も出没するようで、学校の敷地内に「サルに注意」の看板が何個か建てられていました。サルが見たい！と一生懸命探しましたが、遭遇できず。。ガジュマルの大きな木があったり、鳥が沢山いたり、とても癒されました。また、敷地内には、名護市の支援とロンドリーナ沖縄県人会の尽力で建てられた建物があり、真四角なんですけど、どこか本を思わず造りになっていました、中には日本系の勉強ができる場所等もあり、庭園みたいなのところもありました。

その後はロンドリーナのシンボル「EU love LONDRINA」のモニュメントへ。EUとは「私」という意味です。「RINA」の大きな文字にテンションが上がり、何回も、何回も撮影をしました。笑 RINAでよかったと思いました。そしてここで生まれて2回目のアサイーを食しました。沖縄で食べたアサイーは全くおいしくなかったんですが、本場ブラジルのアサイーはおいしかったです。みんなが夢中になるのがわかりました。ロンドリーナに住みたいです。

研修19日目 ブラジルロンドリーナ

1月29日(水)

ロンドリーナにある日本人会館を見学しました。広大な敷地に何個あるのかわからないぐらいサッカーグラウンドがありました。サッカーだけでなく、テニス、バスケットコートいろいろありました。車がないと移動できないぐらいでかいです。

この日の昼はプリシーラさんのおばあちゃんの家で食べました。おばあちゃんは去年から体が悪くなり、つきっきりの介護が必要となっています。けいこさんと兄弟が交代ずつ家に泊まり込み、全部自分たちで世話をしています。こちらでもやはり介護の問題がとても大きいようです。でもけいこさんはとても明るく、楽しんでやっているよと言っていました。どの国も介護の問題は一緒なんだなとアメリカ、ブラジルを見て感じます。ロンドリーナのけいこさんも料理上手でとてもおいしいご飯です。

ロンドリーナの街をぶらぶらしながら、レチーシアに癒され、夜は沖縄県人会会長の城間ル

イスさん、奥さんのミチさん、息子のチアゴとご飯を食べに行きました。ルイスさんはとてもチャームな方で、ずっと冗談を言っていました。しかもポルトガル語で。ミチさんは日本語ペラペラですが、ルイスさんは全然しゃべれません。しかし、ミチさんに通訳をお願いするわけでもなく、ずっとポルトガル語で話しかけてきます。これは聞き取るしかない！とジェスチャー等を交えながら、あっちのジェスチャーも見ながら会話しましたが、全然話がかみ合っていないとミチさんが大爆笑していました。ルイスさんが土曜日の県人会の歓迎会の時すこしでもポルトガル語で挨拶できたほうがいいということで、ポルトガル語講座が始まりました。私はブラジル2週間以上になりますが、こんにちは！さえ忘れてしまうぐらいポルトガル語がしみ込んでできません。でもルイスさんが一生懸命教えてくれるので、何とか2つの文章だけは覚えました。これを発表に使うにはもう少し技術が必要です。

研修20日目 ブラジルロンドリーナ

1月30日(木)

朝荻堂家に行き荻堂ルイスさんと一緒に豆腐作りです。ルイスさんのお母さんは名嘉真出身で、ルイスさんは2世になります。お母さんが豆腐作りをしていたらしく、お母さんから受け継いでロンドリーナで「島豆腐」という名前で豆腐を売っています。いつもは朝6時ぐらいから作るようですが、私たちの為に9時から作ってくれました。売るためでもなく、私たちの為だけに。。。ありがとうございます。

大豆を水に浸すところから始まり、作り方はほぼ沖縄と一緒にです。違うのは、水気を飛ばすために使う機械が洋服の脱水機というところです。豆乳も豆乳でした。この地域で豆腐を作るためにはどうすればいいのか、伝統は崩さず、その地域にあった作り方を行っています。豆腐の触感も沖縄のものと一緒にです。ちょっと味が薄いのがルイスさんの「島豆腐」のいいところかもしれません。ルイスさんは、これを恩納村の人に伝えたいと言っていました。自分たちのことをもっと知ってほしいと。恩納村に報告してね！と言われました。是非広報おんな等で、「世界のうんなんちゅ」というコーナーを3ヵ月に1回でもやっていただけたらとっても面白いと思います。私たちもブラジルで恩納村にルーツを持った人が豆腐作っていること、歌がうまい人達がいっぱいいること、こんなにたくさんいることも全然知りませんでした。村民に少しでも彼らの存在を知ってもらいたい機会になると思います。また、この広報おんなを世界のうんなんちゅはとても楽しみにしているようです。是非ご検討を！！

研修21日目 ブラジルロンドリーナ

1月31日(金)

朝からフェーラーへ。見たことのない果物や、肉の売り方、ハチミツの売り方、日本とはちよつと違っていました。

コーヒー勉強会に参加しました。2008年ブラジルで初めて飲んだエスプレッソは苦すぎて、全然飲めませんでした。しかし、今回はとてもとてもおいしくて、食事終わりに必ず飲みたくり、歳をとったなと感じました。プリシーラさんがコーヒーの勉強会に連れて行ってくれてコーヒーについて詳しく学びました。たとえば豆。コーヒーの豆は死豆と言われる死んだ豆も多く取れてしまいます。その死豆も一緒に焙煎してしまうと濁った味になるようで、このコーヒーショップでは細心の注意をはかり、使える豆だけを選び焙煎しお客様に提供しているということが売りでした。ロンドリーナは以前はコーヒーの名産地でしたが、ある年に大きな霜が降りたらしく、それからコーヒー豆の生産は減少しているようです。コーヒーの焙煎だけでなく、コーヒーの煎れ方も様々で、トルコ式、今一番のオーソドックスなやり方等、それぞれ豆の挽き方を変えないと持ち味が出ないとのことでした。初めて知ることばかりで本当に有意義な時間でした。ありがとうございます。

お昼はまたおばあちゃんの家へ行きみんなでご飯を食べました。今日はカレーでした。しかもカツカレー。本当においしくて日本にいるようでした。おばあちゃんの家ではみんなで縁側みたいなどころでご飯を食べます。それがとても楽しくて、おしゃべりにも花が咲きます。プリシーラ家の話をいろいろ聞きました。おじいちゃんが亡くなってすぐ、急におばあちゃんの体調が悪くなり、今はもう歩けなくなっています。しゃべることもできず、でもご飯はよく食べるとけいこさんは笑って言っていました。

その後、私たちはバレーをしに沖縄県人会館へ。約20名ほどが集まって男女混合で試合形式でバレーをしました。バレー部だった私は一人はりきり、スポーツは言葉の壁を超える！と意気込んでおりました。プリシーラ姉さんのバレーの上手さにも圧倒され、バレーでみんな仲良くなった感じがします。

その後ロンドリーナの若者軍団に合流し、若者との交流をしました。ロンドリーナでは、いやブラジルではゲームで負けた人は顔に落書きをするというのが主流のようで、キワ子チームはしょっちゅう書かれていました。とても面白いゲームで、かなこはそのトランプがほしいとずっと言っていました。

研修22日目 ブラジルロンドリーナ

2月1日(土)

朝、プリシーラ姉さんの試合を見に行きました。姉さんは、ロンドリーナ代表になるぐらいの人で、ボールが重そうで、痛そうで、コートにいたら絶対避けたくなるなと思いながら見ていました。サーブもパワーサーブ。すごかったです。大人になってもみんなでこんなバレーができるなんて、ちょっとうらやましかったです。とても楽しそうでした。

その後私たちは、与那嶺カレンハウスへ。与那嶺カレンのお母さんは恩納村の2世のようです。ただ、お母さんはもうお亡くなりになられているようで、親戚等も誰もわからないそうです。親戚もほぼわからないようですが、恩納村ということはわかっているようです。

そんなカレンですが、三線の名人でした。弟と2人師範の免許を持っているようです。古典ではなく民謡です。三線を繋がりには沖縄へも2、3回来ているようです。お父さんは西原にルーツがあるようです。おじいちゃんおばあちゃんともとても仲良しで、おばあちゃんはベジタリアンになったカレンの為にベジタリアン用のご飯も用意していました。コシーニャもおばあちゃん特製で、肉が入っていないんですが、肉の味がするコシーニャでした。孫を思う気持ちですね。弟は残念ながらサンパウロに行っており会うことができませんでした。最後にはカレンと三線ピアノコラボをしました。なぜかキワ子が号泣していました。笑 キワ子さん、本当によく泣くんです。移民歴史博物館、うりずん会、感受性豊かなキワさんがいたので、演奏もとてもよくできた気分になりました。笑 いつか恩納村にも来てほしいなと思います。

夜は沖縄県人会が歓迎会を開いてくれました。皆さん1品ずつ持ち寄りテーブルは食べ物だらけになりました。それぞれ想いのこもった一品で、おにぎり、サーターアンダギーなど沖縄のものたくさんありました。事前研修でブラジルのビアンカさんが話してくれた「味噌おにぎり」もありました。味噌おにぎり本当においしかったです。私たちのためにこんなに集まってくれて本当にうれしかったです。

そして歓迎会に合わせて、私が名護市とゆっくり進めていたブラジルとのネット中継も行いました。

名護市とロンドリーナは姉妹都市で、今年名護市は市政50周年を迎えます。それに当たり、世界の姉妹都市の方々とつながるプロジェクトみたいなものがあり、たまたま名護出身で、たまたま姉妹都市のロンドリーナにいた私は、名護市とロンドリーナもつなげたい！と思い、会社から中継セット借りて持っていきました。ネットが繋がるか不安でしたが、何とか回線が落ちることもなくできました。名護市にはビアンカさんがいて、久しぶりに見る友達や、家族でずっと泣いていました。それを見てロンドリーナの県人会の何名かも泣いておりました。今回は私のわがままで時間を取っていただきありがとうございました。つながることが簡単ということもわかりましたし、つなげることの大切さも感じました。

そしてロンドリーナには多くの恩納村にルーツを持った方々がいることもわかり、これからプリシーラさんだけでなく、まずはハケオ、そしてカレンというように恩納村の研修生が続いていけばなと思います。

研修23日目 ブラジルロンドリーナ

2月2日(日)

ずっと気になっていたフェーラーへ！フェーラーは日本で言う出店のな場所です。曜日が出る場所が決まっているらしく、今日の場所はちょっと日系関係が多い感じでした。野菜もとても新鮮で、果物もたくさんありました。比嘉侍というパステウのお店で食べたパステウ

が本当においしかったです。でも比嘉さんには会えませんでした。その後はみんなでサンバ教室へ。プリシーラ姉さんが組んでくれました。先生は本当にテンションが高くて、ダンス嫌いな私も楽しくダンシングできました。笑 サンバはステップが難しすぎます。先生とプリシーラ姉さんのダンスはすごく川の流れるようにスムーズでした。私たちはまだまだブラジルかぶれになれないぐらい、笑いしか起きないダンシングになってました。

ロンドリーナの県人会会長城間ルイスさんが、どうしてもお昼ごちそうしたいとお家に招待してくれました。本当に別荘かというぐらい大きなお家で、家がある場所がまたすごいんです。集団お屋敷みたいなどころにあるんですが、門をくぐる時のセキュリティーがまず大変厳重でした。運転手の免許書も提出しなければなりません。簡単に行って入れるわけではないようです。セキュリティーを通り抜けると、中は一つの街のようなところでした。道も何本にも別れ、初めて来た人は迷ってしまうほどです。そんな場所に住むルイスさんは本当にお茶目な方で、ポルトガル語を一生懸命教えてくれました。ルイスさんお奥さんミチさんの手料理もとてもおいしかったです。

城間家を後にし、私たちはプリシーラさんのお母さんに挨拶におばあちゃんの家へ。この縁側みたいところでみんなで食事するのが好きでした。もし将来家を作ったらこんな感じにしたい！と考えてます。

研修 24 日目 ブラジルロンドリーナ→サントス

2 月 3 日 (月)

朝とても早く出発しました。レチーシアも今日から学校ということで、昨日のうちにサヨナラをしました。いつか沖縄で会いたいです。プリシーラ姉さん今日から仕事なのにごめんなさい。ありがとうございます。

そして荻堂ルイスさんも来てくれて、早速出発。

空港について荷物預けると、絶対一番オーバーすると思っていた加奈子を余裕で抜いて1番オーバーしていました。絶対カンポグランデで圭子さんからもらったお土産です。笑 でもキワ子さんにも協力してもらい、何とか23キロに収まりました。皆さんいつもすみません。。。姉さんがかってくれたハチミツのパンをもらいお別れです。

最初姉さんがちょっと怖かったですが、本当にお姉さん気質な姉さん。笑 バレーも本当に上手で、Boss な姉さん。かつこよかったです。姉さんの2009年の恩納村研修生の時の写真等を見て本当に考えさせられました。姉さんが研修生として来てなかったら、私たちは今ロンドリーナにいません。姉さんが沖縄にいたときみんなが姉さんを大事にしたからこそ、今姉さんも私たちを受け入れしてくれるんだと思います。本当にありがたいことです。それを考えながらあのDVDを見ると、グッとくるものがありました。姉さんありがとう！

そして荻堂ルイスさん！朝から本当にありがとうございます。豆腐を作りたいとわがまま

を言ってしまい……。とてもおいしかったです。愛情たっぷりのルイスさん、ハケオが来た時は任せてください！連れまわします！！笑

ロンドリーナも最高な場所でした。私がもし留学するなら、サンパウロ！って言いたいところですが、ロンドリーナを選ぶと思います。そのくらい田舎でもなく、都会でもない、自然も残っているととても心地の良い場所でした。そして何よりやっぱり名前ですよ。笑 ロンドリーナ！笑

サンパウロにつくと、雨がすごかったです。2月はよく雨が降るって言っていましたが、そのせいで渋滞がすごかったです。

敏夫さんの車に乗りサントスへ。

初のサントスです。那覇港とは比べ物にならないくらい大きくて、ガントリークレーンもたくさんありました。コンテナ船もかっこよかった。海運は本当にかっこいいです。

夜は津嘉山ファミリーとシュハスコへ。サントスシュハスコも、とてもおいしかったです。

会には、敏夫さんの兄弟、兄弟の息子娘、孫。サントスも家族の強い絆がありました。とてもうらやましいです。

敏夫さんの娘ゆかりさんの息子正一は飛び級で高校を卒業し、大学に入学しています。その正一を今年の研修生へ行かせようと思っていると話になりました。正一のお父さんが気にしていたのは、日本語が全然しゃべれないということでした。アメリカの賢一の話をし、全然しゃべれなかったけど、今回アメリカに行った際は日本語でしか会話していない話だったり、なぜ恩納村が研修期間を3ヵ月から6ヵ月に伸ばしたのか等を説明しました。直接話をできたことで、お父さんは安心した様子でした。今年の研修の応募が始まったらまた、こちらから連絡しようと思います。にぎやかな津嘉山ファミリーに囲まれてとても楽しかったです。明日はイグアスへ行く旅です。朝4時出発です。笑

研修25日目 ブラジルサントス

2月4日（火）

朝4時にサントスからサンパウロへ移動です。サントスからサンパウロへは2時間かかるため、7時離陸の飛行機に乗るためにはそうなってしまいます。昨日もサンパウロへ迎えに来てもらっており、とてもとても心苦しかったです。

敏夫さん本当にうとういむちがすごいのです。毎年研修生をイグアスに連れて行ってくれています。本当にうれしいのですが、敏夫さんに申し訳なき過ぎて……。毎年滝に打たれる敏夫さん。スタスタ本当に歩くのが早い敏夫さん。去年の研修生の時はインスタ映えの蝶の羽の絵のところであれしそうに写真を撮っていた敏夫さん。今年は撮ってくれなかった。笑 イグアスの滝を見たときは滝のでかさもビビりましたが、何より敏夫さんの「上歩いてる人達はアルゼンチン人だよー」に感動しました。自然的国境ですね。かっこよかった

です。やっぱり「ヤッホー」ってすごく手をブンブン振ってしまいました。笑
イグアス楽しんだ後に、少し時間があつたので敏夫さんとドライブしました。その中で、ナンバーカードが3種類ありました。一つはブラジル、一つはアルゼンチン、最後の一つはパラグアイ。普通に売買しに来るようです。国境を越えてくるってすごいロマンチックですね。サンパウロ着くと、もう10時になっていました。そこからまた敏夫さんはサントスまで運転しなければなりません。何もお手伝いもできない自分がとても悔しかったです。敏夫さんの車の中で長渕を聞くと、本当にいい曲に聞こえてきます笑。
毎日那覇国頭を往復しているぐらいの感覚です。本当に申し訳ありません、本当にありがとうございます。

研修26日目 ブラジルサントス→帰国

2月5日(水)

朝とても早く出発しました。というかあまり眠れませんでした。この研修が終わってしまうことが寂しくて、つらくて・・・笑

朝から元気に最後のお土産を買いにデパートへ行きました。最後の私の大好きなブラジルパンを食べようと思いましたが、お昼は敏夫さんの奥さんきょうこさんと食事に行く約束をしていたので、絶対食べれなくなると思ってやめました。今ちょっと後悔してます・・・笑
笑 どんだけ食い意地はってるんじゃーい。笑

きょうこさんが連れて行ってくれた食堂みたいなところは本当においしくて、今までのレストランではあまり見かけなかった天ぷらや、豆腐などがありました。日本っぽいなーと思っていたら、やはり日系の方が運営しているとのことでした。食文化とはすごいですね。同じ料理でもやっぱり味が少し日本寄りな気がしました。本当に全部おいしかったです。肉を見ると「あっ、こんな分厚い肉最後だ」という思いで2個取りました。笑

サントスでずっと笠戸丸が停まったサントス港に行ってみたのですが、天気が悪くいけませんでした。。。でも、きょうこさんと1時間ぐらいかけて、海沿いを歩きました。本当にずーっと港が続いてました。きょうこさんともいろいろお話をしました。移民してきたときの話、お子様たちのお話、強盗に入られた話。何カ月か前の夜中3時頃、強盗4人が襲ってきたらしく、家にあつたものは全て取られていったようです。2人はすぐ警察を呼ばれないようにトイレの中に閉じ込められたようです。この話を聞くと本当にこんなことがあるんだと信じ切れませんでした。しかし、ブラジルでは日常茶飯事で、サンパウロの棚原光子さんも言っていますが、だから今はマンションが人気らしいです。棚原家もとてもたくさんの防犯カメラを家じゅうに着けておりました。日本はやはり安全です。

敏夫さん、ハミさん(敏夫さん娘ゆりこさん旦那)、のりおさん(敏夫さん弟)、こうぞうさん(敏夫さん妹旦那)が私たちをサンパウロまで連れて行ってくれることになりました。津嘉山ファミリーは本当に仲良しで、みんなしょっちゅう一緒に飲みに行っているようです。荷物が多い私たち、2台の車が必要になり、ハミさんも車をだしてくれ、残りの二人は

帰りの話相手のな感じ。サントス着いたらそのまま飲みに行くって話をしておりました。笑

サンパウロの空港につくと、棚原ファミリー、ブルーノ、明が来てました。サンパウロの人達にとっても会いたかったので、本当にうれしかったです。でもみんなの顔を見ると「あー、本当に研修終わってしまうんだなー」と実感しました。

棚原国男さん、クーニー、クーニーお母さん、棚原光子さん、棚原栄さん、栄子、愛子、みーか、ななみ、ブルーノ、明パイセン、お見送りまで来てくれて本当にありがとうございます。そして、敏夫さん、のりおさん、こうぞうさん、ハミさん、サントスからわざわざ見送りに来てくれて本当にありがとうございます。最後の最後まで皆さんにお世話になりました。本当にありがとうございました！！

帰りたくなさ過ぎて、どうにか時間が止まればいいのにと何度思ったことか・・・笑



修了証

恩納村派遣第7号

玉城 里那

令和元年度恩納村青年海外派遣事業に於いて、研修生として研鑽に励み、恩納村出身の海外移住者子弟等との絆を深めるとともに、国際交流に関する知識と経験を身につけられました。

よって研修終了したことをここに証します。

研 修 期 間 : 令和2年1月11日～令和2年2月7日

研 修 先 : ブラジル(サントス・サンパウロ・カンポグランデ・ロンドリーナ)
アメリカ(ロサンゼルス)

令和2年2月20日

恩納村長 長浜 善巳



スナップ写真

12月22日研修前に事前勉強会を行いました。



H30年度研修生 平田カート賢一さん（右から二番目）
H29年度研修生 渡久地ミシェルさん（一番右）



ミシエルの両親も一緒にお食事へ



北米沖縄県人会館へ行きます。



村長・副村長へ研修の意気込みを伝えました！



渡久地ミシェル宅にお世話になります。



北米沖縄県人会で琴を教えている照屋先生と



北米沖縄県人会館を見学中。



ロサンゼルス若いウチナーンチュたちと交流



ロサンゼルスにも沖縄そば売ってました。



エンジェルスタジアム



渡久地ファミリーと食事会



平田家で賢一の祖母キクエさんと



三線やウチナー口を聞いて嬉しそうなキクエさん



加奈子の知り合いの池原とし子さんに会いに。
なんと紀和子の親戚だということが判明！！



ミシエルの通う三線教室の皆さんと



皆で最後のお食事



サンパウロ到着！村人会の方々のお出迎え。
素敵な横断幕までありがとうございます！



サンパウロの展望台！



私たちが愛してやまない棚原ファミリー



ミシェル・賢一空港までお見送りありがとう



H30年度研修生 棚原国広さん（一番左）
ブラジルでの朝ごはん。棚原ファミリーと！



ジャパンハウス前



棚原みつこさん 棚原栄一さん（栄子の祖父母）



ブラジル日本資料館へ！H30年度研修生 棚原栄子（中央）



ニーセーターツアー見学。南米の若者ウチナンチュたち



サンパウロの大きな公園でサイクリング



ビラカホン沖縄県人会館



ブラジル沖縄県人会館本部の首里城の幕の前で歌舞伎ポーズ



琉球国祭り太鼓の練習見学。熱気がすごかったです。



こんなに多くの若者が沖縄文化を習得中



うりずん会と交流。みんな沖縄が大好き！



棚原家の経営しているお店にて看板娘になってみた



サンパウロ恩納村人会の皆さんと！こんなに集まってくれました！



カンボグランド到着。村人会の方たちのお出迎え！！



お世話になる山城恵子さん



山内良子さん宅にて会食



沖縄県人会の皆さんに歓迎会をしていただきました！



安富祖出身の恵子さん・真凛（良子さん孫）・良子さん



志良堂さゆりさんの三線工房



公園散策



フェーラーにて沢山のウチナンチュと沖縄そば!



カンポグランデといえばそば!



沖縄県人若者たちとの交流!



ポニートの洞窟にて



良子さん、恵子さんの親戚の方々との交流



お見送りもこんなに沢山の方にきていただきました!



恵子さん、真凛、良子さん本当にお世話になりました!



お次はロンドリーナへ！



名嘉真出身の萩堂ハケオ（一番右）



現地の人とスポーツ交流をしました



村出身3世の与那嶺カレン宅で三線を弾きました



今回お世話になる H20 年度研修生 国吉プリシーラさんファミリー



プリシーラさんが恩納村で研修しているときの写真を発見

2009 年の宮平課長との写真



城間ルイス沖縄県人会長の自宅にて



県人会の方たちとも交流しました



沖縄県人会館前にて



バレー後の会食にて沢山お話を聞きました



ハケオのご両親と広大な畑



萩堂ファミリーと



萩堂ミヨコさん宅



ブラジルのコーヒー文化を習いました



ロンドリーナの若者ウチナンチュたちと



沖縄県人会の皆さんと交流しました！



ロンドリーナ皆さんお世話になりました！！



最後の地域サントスへ！



津嘉山ファミリーの皆さん



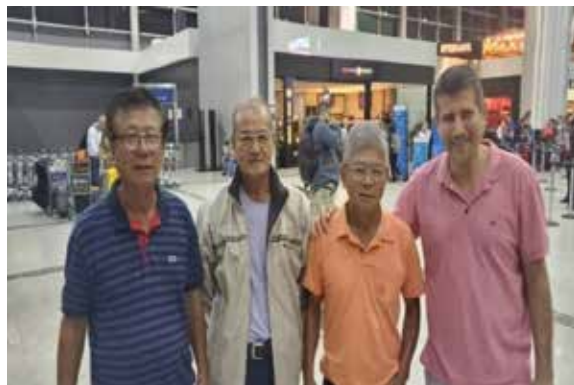
敏夫さんの妻きょうこさん



村人会長 南恩納出身の津嘉山敏夫さん



津嘉山ファミリーの皆さん



最後のサンパウロ空港。津嘉山ファミリー
棚原ファミリー本当にお世話になりました！



閉講式にて修了証書の授与。
これから恩納村と移住国との懸け橋として頑張ります！



令和元年度恩納村 青年海外派遣事業

▶ 左二人目から玉城さん、比嘉さん、松崎さん



当事業は恩納村の青年を海外へ派遣し、各国の異文化体験を通じて国際的な視野を広げ、地域において意欲的に活動する青年の育成を図ること、移住地との交流の懸け橋となれる人材の育成を図ることを目的としています。

令和2年1月11日～2月7日に実施された青年海外派遣事業で海外5地域（米国ロサンゼルス・ブラジルサンパウロ・ロンドリーナ・カンポグランデ・サントス）へ行ってきた研修生、比嘉紀和子さん・松崎加奈子さん・玉城里那さんの研修の様子を報告します。



ロサンゼルス

America

1月11日～1月14日

玉城里那

今回の研修から初めて追加されたアメリカ。最初、早く南米に行きたくて「アメリカなんていつでもいけるでしょ」と思っていたが・・・ごめんさい！最高でした。恩納村研修生だったミシェルと賢一に久しぶりに会い、二人の家族、親戚、そしてすごい偶然の重なりで新しい恩納村民との繋がりもできました。2016年のウチナーンチュ大会が生んだアメリカカリフォルニア州との繋がりと、出会いのきっかけは本当ちょっとした出来事だったのかと思うと、やっぱり世界は狭いし、人生面白い！



比嘉紀和子

食べ物もビックサイズなアメリカ！その滞在中に最も衝撃的だった事が遠いアメリカに私の祖父母の親戚が!!!!松崎さんに会いに行くのに知り合いを訪れるということで約4時間かけて会いに行ったところ、話を聞いてみるとまさかの私の祖父母につながり、家にも何度か訪れた事があったそうです!!!ここに来る事がなければ出会わなかった私達。人との繋がりを今後も大切にしていこうと感じました!!



▶ H29年度研修生の「渡久地ミシェルさん」



▶ 県人会の福クラブの皆さん。

松崎加奈子

ロサンゼルス沖縄県人会館ではイベントが開催されているだけでなく、ウチナーグチクラスや沖縄料理の教室、琉球舞踊を練習するための部屋があったりと、私や私の身近にいる人より、沖縄について学んでいるのではないかと感じました。また沖縄に関する資料が沢山置かれている部屋や、沢山の筆があったり、みんなが集まる広い部屋があったりととても大きい建物でした。掲示されている色々な活動を見ると、ウチナーンチュが集まる“場所”があり、ウチナーンチュだけではなく沖縄が好きなお客との交流もあり、とても素晴らしい場所でした。また恩納村の元研修生が若者をつなげていきたいと話していたのでこれからの取組も楽しみです！



▶ 山田出身者に会いに行くときまさかの紀和子さんの顔が映った!!!



サンパウロ

São Paulo

1月14日～1月20日

▶サンパウロコンニャス空港にて平成29年度研修生「棚原直雄さん」と平成30年度研修生「棚原素子さん」のご家族と村人会長「津嘉山敏夫」さんのご家族たちのお出迎え。



玉城里那

朝7時という早さなのに、沢山の人が出迎えてくれました！恩納村人会の津嘉山敏夫ファミリー、棚原栄一ファミリー、棚原国雄ファミリー。本当にありがとう。サンパウロでは沖縄で出会った人、若者ウチナンチュ大会で出会った人、親戚とたくさんの人と再会できました。いろいろな方に歓迎され、ウチナンチュという繋がりでこんなに繋がるのかと嬉しくなりました、みんなが沖縄に帰ってきたとき、同じように暖かく迎えられるようになります！そしてなにより恩納村人会の方々サンパウロにこんなにたくさんいるなんて、本当に感激です！！棚原ファミリー本当にお世話になりました。

比嘉紀和子

初めてのブラジルでドキドキしっぱなしのサンパウロ！歓迎されっぱなしでご馳走いっぱい毎日。日本移民資料館や棚原ファミリーの職場を見学、初めての公園サイクリング、カラオケもエイサーも盛んであつという間のサンパウロでした！空港では、恩納村の旗や垂れ幕も準備してくれたり、家に招待してくれたり、本当の家族のように接してくれて嬉しかったです。また、沖縄がブラジルで会える事を楽しみにしております。この繋がりを大切に生きてゆきます。ありがとう！！

松崎加奈子

サンパウロでは恩納村出身の棚原家の3世、4世の方が中心になり案内してくれました。日本移民資料館に行き、移民した時の背景や情勢など移民した人たちについてとてもたくさんの情報があり、想像以上に大きいことに驚きました。ウチナンチュも含む日系の方々様が様々なことが起こる中でもブラジルで頑張っていたからなのではと思いました。サンパウロのウチナンチュはとにかくカラオケが大好きな人たちでした！沖縄の唄を歌えば心が通じたように感じ、ブラジルの唄のテンポの良い曲を歌えば大騒ぎ！唄が好きなウチナンチュの血が騒ぐのではと思いました！カラオケだけではなく、一緒にご飯を食べているときは自分の中で沖縄というキーワードが占める割合が小さいんじゃないかと思うくらい、サンパウロの皆さんの沖縄に対する強い意志を感じました！



◀うりずんの会の皆さんと交流会！



▶恩納村人会の皆さんとの交流会の様子。過去の研修生も沢山いました！



カンポグランデ

Campo Grande

1月20日～1月27日

比嘉紀和子

自然と調和しているカンポグランデ。野生のカピバラやカエル、トカゲと出会えて興奮しました。透明度の高い川でシュノーケリングしたり牛に乗ったり動物と触れ合えました。地元の方と一緒にエイサーを踊ったり三線をして、世界の反対側にいるのにまるで沖縄にいるかのような気持ちになりました。カンポグランデで麺を作っているキヌエさんの沖縄そばも食べて良かったです。お世話になったよし子さんの孫のマリンも免許とりたてでしたが、いろいろ案内してくれました。美味しい手作りご飯もありありがとうございました。

松崎加奈子

カンポグランデではすごくゆったりとした空気が流れていました。驚いたのはフェーラーという市場のなかには沖縄そばの店が沢山あったことです。名護の人が多かったのですが、沖縄県人会の方が集まってくれて、みんなで楽しくおそばを頂きました。沖縄そばが一つの名物になり、ブラジルでも沖縄そばが食べれるのは嬉しくもあり、不思議な感覚でした。私たちがお世話になった、よし子さんけい子さんのところではとてもおいしいご飯を頂いたり、ブラジルの料理を教えてもらったり、大きな洗濯機を使わせてもらったり、とても心地がよかったです。よし子さんが沖縄に来た時に私がウチナンチュに関心を持つきっかけになった人なので、ブラジルで再会できてうれしかったです。カンポグランデ滞在中にポニートという地域にきました。そこには澄んだ川や青い色が放たれる洞窟があります。日焼け止めや虫よけの使用の制限、自然を壊さない様な取組がとても素晴らしいと感じました。

玉城里那

初カンポグランデ。去年11月にあった恩納村からのウチナンチュ1世のよしさんとけい子さんが！二人は小学生の時にブラジルに渡っています。沖縄が大好きで、たまにウチナンチュだけで喋っているところがとてもかわかったです。サンパウロとはまた違ったカンポグランデ。暑い！という日差しが強い！！けい子さんの作るおいしいすぎる料理を毎日食べすぎながら、幸せな時間を過ごしました。カンポグランデでは沖縄市安慶田の青年会から伝わった伝統エイサーが主流で、そこに名桜エイサー、カンポグランデにある空手道場の先生が始動した空手の型を取り入れていました。沖縄にいる様なゆったりとした時間が流れたカンポグランデ、毎日お世話になったよし子さん、けい子さん、マリン、まなみ、かおり本当にありがとうー！そして沖縄県人会のみなさん、本当にありがとうございました。



▲お世話になった、「よし子さん」と「けい子さん」と「まりん」



▲カンポグランデ村人会の皆さんで歓迎会をしてくださいました！



▶カンポグランデ空港にてお出迎えされました。



ロンドリーナ

Londrina

1月27日～2月2日

玉城里那

ブラジル3か所目はロンドリーナ！名前見て！「LONDRINA」私の名前は「RINA」！すごく親しみを感じます。

また名護と姉妹都市ということで、もともと名護育ちのわたしは更に親近感。ロンドリーナには2009年に恩納村で研修したプリシラ姉さんと家族にお世話になりました。バレエも一緒にして、コーヒーについても学び本当に楽しかったです。娘のレッチーシアも可愛すぎて！私のことだけ「チアリナ」って呼ぶ。りなおばさんって意味。かわいいから許します。そして、恩納村にルーツをもつ荻堂ファミリー！ルイスさんの作る島豆腐お母さんから習い今も作り続けてます。作り方はブラジルで作れるよう工夫されていました。また食べたい。ロンドリーナ最高でした！



▲ ロンドリーナ沖縄県人会支部の方々が集まって歓迎会をしてくださいました！

比嘉紀和子

ロンドリーナは2009年に恩納村研修生だったプリシラさん家族、豆腐を作っている荻堂家族にも特にお世話になりました。バレエと一緒にプレイしたり、実際の豆腐作りを見学させてもらったり、ヨナミネカレンさんの三線と里那さんピアノのコラボレーションも素晴らしく感動しました。県人会長ルイスさん家族も夕食を一緒に食べたり、家に招待してくれて、ご馳走をふるまってくれたりとても親切でした。ここでも、家族の絆を実感しました。

▼ 県人会長「城間ルイスさん」の自宅で交流会をしました。

松崎加奈子

お世話になった国吉ファミリーにはかわいいお孫さんのレッチーシアがいます、初めて会ったときに彼女は「私はウチナンチュだ」と言い、まだ小学生にもならない年齢でアイデンティティを明確にしていることに感激しました。また、現地で恩納村のエイサーの映像を見る機会がありました。沖縄の反対側で見るのは変な感じでしたが、恩納村の文化の一つとして、知ってくれる人が増えたらいいなと思いました。ロンドリーナには島豆腐を作っている荻堂さんという方がいます。私たちのために一緒に作る時間を確保してくれました。沖縄で食べる豆腐となんら変わらないおいしい島豆腐でした！母から引き継いだ沖縄の味をブラジルでも食べられるようにと、豆腐を作っている姿はかっこよかったです。



サントス

Santos

2月3日～2月5日

比嘉紀和子

ブラジル最大の貿易港して有名なサントス。あいにくの雨や曇りでしたが、サントスFCのホームスタジアムやコーヒー博物館に行きました、閉館日でタイミングが悪かったですがビーチやショッピングセンターには広くて驚きました。2日目には、飛行機で移動してイグアスへ!!とても壮大な滝は素晴らしかったです。サンパウロの空港までの約2時間の運転を私たちがサンパウロに到着した時や、イタリリへ向かう時など何度か復讐してもらってました。イグアスへ行くときは、後部座席でコクコクして申し訳なかったです。今回は眠らないと誓いつつ、もう帰国の時間になってしまいました。移動時間の多かったサントスの旅。イグアスの時に忘れ物をしてしまった反省はとても大きいですが、これも良い思い出になりました。津嘉山ファミリー今度は沖縄で会いましょう!!!

松崎加奈子

サントスでは津嘉山ファミリーにお世話になりました。初日の夜から津嘉山さんの親戚が沢山集まってくれて、長くなったテーブルを囲み、わいわいと話をしながらジュハスコを食べました！会話はポルトガル語を話していると思ったら、ウチナーグチに変わったり。耳が忙しかったです。敏夫さんのご厚意でイグアスの滝に連れて行ってもらいました。ここで覚えているのは敏夫さんのふとした話。敏夫さんは寅年生まれ。寅年のとき沖縄に来ていたが、一緒にお祝いできなかったことが悔やまれると。これから先何回もできることじゃないと、敏夫さんはブラジルにいても沖縄で過ごした記憶や思い出を大切にしている、友人を案じているのかなと思いました。ウチナーンチュにはそういう人や繋がりを大切にしている人がきっと多くいるからウチナーンチュのネットワークが強いのかなと思いました。



▶ 津嘉山ファミリーの皆さんと交流しました。

玉城里那

サントスには恩納村のウチナーンチュで一番有名といっても過言ではない津嘉山敏夫さんがいます！ロンドリーナから移動してきた私たちをサントスから二時間かけて迎えに来て、次の日朝4時にサントス出発してまたサンパウロ空港へ行き、そこからイグアスへ！日帰りだったので、また22時から二時間運転してもらっている感じです。敏夫さんのウトゥムチがやばすぎて。津嘉山ファミリーにもみんなに集まって頂き、また新しいつながりができたことに本当に感謝です。津嘉山ファミリー本当にみんな仲良し！沖縄からの移民の船が一番最初に停まったサントス港。ずっと雨で降りて見に行くことはできませんでしたが、本当に港町でした。ここを目指して豊かさを求め移民に出たウチナーンチュ。とてもジーンとききました。



▶ 津嘉山敏夫さんとイグアスの滝へ



▶ 沖縄に帰るときにみんなに沢山の人がお見送りに来てくれました！

參考資料

恩納村青年海外派遣事業実施規則

平成29年3月31日

規則第9号

(目的)

第1条 恩納村青年海外派遣事業（以下「この事業」という。）は、恩納村の青年を恩納村出身者海外移住国（以下「移住国」という。）へ派遣し、村人会等並びに現地との交流や異文化体験を通じて国際的な視野を広げ、地域において意欲的に活動する青年の育成を図るとともに移住国と恩納村との友好親善関係の増進に資することを目的とする。

(応募資格)

第2条 この事業に応募できる者は、次の各号に該当する者とする。

- (1) 対象年度の4月1日現在、1年以上恩納村に本籍又は住所を有する者
ただし、本籍については学校進学のため一時的に住所を異動している者に限る。
- (2) 原則として22歳以上35歳までの者
- (3) 研修前及び研修後において、村の主催する国際交流事業へ積極的に参加できる者
- (4) その他村長が認める者

(派遣人員)

第3条 派遣人員は若干名とし、当該年度の派遣人員は、恩納村青年海外派遣事業検討委員会（以下「委員会」という。）を設置して決定するものとする。

(申請)

第4条 この事業に応募する者は、様式第1号から第4号までの書類により申請するものとする。

(選考)

第5条 派遣する者は、前条の規定による申請者の中から選考により決定する。

2 前項の規定による選考は委員会で決定するものとする。

(研修費用)

第6条 恩納村を出発し、帰国するまでの往復旅費、研修期間中の滞在費、海外旅行保険料及びその他の研修に要する経費は、村負担とし、恩納村職員旅費支給条例（昭和44年条例第3号）及び恩納村青年海外派遣事業交付金支給要領（平成29年要領第1号）に準ずる。ただし、私的な経費は本人負担とする。

(交付申請)

第7条 交付金の交付を受けようとする者は、交付金交付申請書（様式第5号）

を村長に提出しなければならない。

(交付決定)

第8条 村長は前条に規定する申請を適当と認めるときは、交付金交付決定通知書(様式第6号)を交付する。

(申請の取下げ)

第9条 交付決定通知を受けた者が交付申請を取り下げるときは、交付金の交付決定通知書を受けた日から起算して30日以内に、交付申請取下げ書(様式第7号)を村長に提出しなければならない。

(取消し)

第10条 村長は、交付金の交付決定後、次の各号のいずれかに該当することとなった者については、交付金の交付決定を取り消すことができる。

- (1) 研修に参加できなくなった者
- (2) 研修生として不相当と認められる事実が判明した者

(返還)

第11条 第9条により交付申請を取り下げた者、又は前条により交付決定を取り消された者は、既に交付金の交付を受けている時は、村長が定める期日までに交付金の一部又は全部返還しなければならない。

(実績報告)

第12条 交付金の交付を受けた者は、当該事業完了後30日以内に実績報告書(様式第8号)を村長に提出しなければならない。

(研修内容)

第13条 研修内容は、移住国の文化、産業等の異文化体験を通じて国際的な視野を広げるものとする。

(研修場所)

第14条 研修場所は、村が指定する移住国とする。

(研修時期及び期間)

第15条 研修時期及び期間は、毎年委員会で決定するものとし、おおむね1か月とする。

(研修生の義務)

第16条 研修生は、次の義務を負うものとする。

- (1) 報告
 - ア 日報を付けること
 - イ 研修報告を作成すること

(2) 親善事業

ア 研修前及び研修後において、村の主催する国際交流事業へ積極的に参加すること

イ 研修先及び村人会等の行う事業等に積極的に参加すること

(3) その他

ア 研修期間中は、研修計画に基づき行動するものとし、所定外の行動をするときは、現地関係者と十分な調整を行うこと

イ 研修目的から逸脱しないこと

ウ 法令を遵守し、現地における村人会等及び研修先等との連絡を密にし、身の安全や健康管理には十分に注意すること

(研修体制)

第17条 研修体制は、次のとおりとする。

(1) 移住国村人会等への協力依頼

村は、受入先の村人会等へ安全面並びに病気、怪我及び事故等の際の対応、処理又は連絡等の協力を依頼する

(2) 連絡体制

研修生は、村役場に適宜連絡を行うこと。研修日程等に変更がある場合には、その都度連絡すること

(保険)

第18条 村は研修生の研修期間中にかかる海外旅行保険に加入する。

(帰国)

第19条 研修終了後は速やかに帰国するものとする。ただし、特別な理由により村長が必要と認めた場合は、この限りではない。

(委任)

第20条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、村長が定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附 則

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

研修生派遣実績一覧

年度	第回	氏名	性別	出身	派遣期間	月数	派遣先																				
平成 29 年度	1	山城 修吾	男	恩納	平成 30 年 1 月 9 日～ 平成 30 年 2 月 10 日	1	ブラジル (サントス・サンパウロ・カンポ グランデ・ロンドリーナ) ボリビア																				
		長濱 茜	女	宇加地				平成 30 年度	2	玉城 悠	男	前兼久	平成 31 年 1 月 9 日～ 平成 31 年 2 月 10 日	1	ブラジル (サントス・サンパウロ・カンポ グランデ・ロンドリーナ) ボリビア	比屋根 良直	女	太田	令和元年度	3	比嘉 紀和子	女	山田	令和 2 年 1 月 11 日～ 令和 2 年 2 月 7 日	1	アメリカ (ロサンゼルス) ブラジル (サントス・サンパウロ・カンポ グランデ・ロンドリーナ)	松崎 加奈子
平成 30 年度	2	玉城 悠	男	前兼久	平成 31 年 1 月 9 日～ 平成 31 年 2 月 10 日	1	ブラジル (サントス・サンパウロ・カンポ グランデ・ロンドリーナ) ボリビア																				
		比屋根 良直	女	太田				令和元年度	3	比嘉 紀和子	女	山田	令和 2 年 1 月 11 日～ 令和 2 年 2 月 7 日	1	アメリカ (ロサンゼルス) ブラジル (サントス・サンパウロ・カンポ グランデ・ロンドリーナ)	松崎 加奈子	女	安富祖			玉城 里那	女	前兼久				
令和元年度	3	比嘉 紀和子	女	山田	令和 2 年 1 月 11 日～ 令和 2 年 2 月 7 日	1	アメリカ (ロサンゼルス) ブラジル (サントス・サンパウロ・カンポ グランデ・ロンドリーナ)																				
		松崎 加奈子	女	安富祖																							
		玉城 里那	女	前兼久																							

